

# 十和田市過疎地域持続的発展計画

(案)

(令和3年度～令和7年度)

青森県十和田市

# 目 次

はじめに	1
1. 基本的な事項	2
(1) 十和田市の概況	2
1) 自然的条件	
① 位置と地勢	
② 気象	
2) 歴史的条件	
3) 社会経済的諸条件	
① 土地利用	
② 人口及び世帯	
③ 産業の概要	
4) 過疎の状況	
① 人口の動向	
② 主な要因	
③ 旧過疎法等に基づく対策と評価	
④ 現状と課題	
5) 社会経済的発展の方向	
① 産業構造の変化	
② 地域の経済的な立地特性	
③ 青森県基本計画との関連	
④ 上十三・十和田湖広域定住自立圏構想との関連	
⑤ 社会経済的発展の方向	
(2) 人口及び産業の推移と動向	12
1) 人口の推移	
① 年齢階層別の人口の推移等	
② 今後の見通し	
2) 産業構造の推移	
(3) 行財政の状況	18
1) 行政の状況	
2) 財政の状況	
3) 主要公共施設等の整備状況	
(4) 地域の持続的発展の基本方針	21
1) 過疎対策の成果と課題	
2) 将来都市像	
3) 将来都市像実現のための基本目標(政策)	
(5) 地域の持続的発展のための基本目標	25

(6) 計画の達成状況の評価に関する事項 .....	25
(7) 計画期間 .....	25
(8) 公共施設等総合管理計画との整合 .....	26
2. 移住・定住・地域間交流の促進、人材育成 .....	27
(1) 現況と問題点	
(2) その対策	
(3) 計画	
(4) 公共施設等総合管理計画等との整合	
3. 産業の振興 .....	30
(1) 現況と問題点	
(2) その対策	
(3) 計画	
(4) 産業振興促進事項	
(5) 公共施設等総合管理計画等との整合	
4. 地域における情報化 .....	36
(1) 現況と問題点	
(2) その対策	
(3) 計画	
(4) 公共施設等総合管理計画等との整合	
5. 交通施設の整備、交通手段の確保 .....	38
(1) 現況と問題点	
(2) その対策	
(3) 計画	
(4) 公共施設等総合管理計画等との整合	
6. 生活環境の整備 .....	42
(1) 現況と問題点	
(2) その対策	
(3) 計画	
(4) 公共施設等総合管理計画等との整合	
7. 子育て環境の確保、高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進 .....	45
(1) 現況と問題点	
(2) その対策	
(3) 計画	
(4) 公共施設等総合管理計画等との整合	
8. 医療の確保 .....	48
(1) 現況と問題点	

(2) その対策	
(3) 計画	
(4) 公共施設等総合管理計画等との整合	
9. 教育の振興 .....	49
(1) 現況と問題点	
(2) その対策	
(3) 計画	
(4) 公共施設等総合管理計画等との整合	
10. 集落の整備 .....	51
(1) 現況と問題点	
(2) その対策	
(3) 計画	
(4) 公共施設等総合管理計画等との整合	
11. 地域文化の振興等 .....	53
(1) 現況と問題点	
(2) その対策	
(3) 計画	
(4) 公共施設等総合管理計画等との整合	
12. 再生可能エネルギーの利用の推進 .....	55
(1) 現況と問題点	
(2) その対策	
(3) 公共施設等総合管理計画等との整合	
13. その他地域の持続的発展に関し必要な事項 .....	56
(1) 現況と問題点	
(2) その対策	
(3) 計画	
(4) 公共施設等総合管理計画等との整合	
(添付資料)	
【再掲】事業計画(令和3年度～令和7年度) 過疎地域持続的発展特別事業分 …	57

## はじめに

平成 17（2005）年 1 月 1 日に、旧十和田市と旧十和田湖町が合併し、新十和田市が誕生しました。

本計画は、「過疎地域自立促進特別措置法」（平成 12 年法律第 15 号）第 33 条 2 項の規定により過疎地域とみなされていた旧十和田湖町区域について、引き続き「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」（令和 3 年法律第 19 号、以下「法」という。）の第 3 条の規定により過疎地域とみなされたことを受けて、法第 8 条の規定に基づき定めるものです。

また、本計画は青森県過疎地域持続的発展方針に基づき、本市の最上位計画となる総合計画（第 2 次十和田市総合計画 ～わたしたちが創る～ 希望と活力あふれる 十和田）に即して策定するものであり、過疎地域に指定されている旧十和田湖町区域における総合的かつ計画的な対策を実施するために必要な行財政上の特別措置を講ずることにより、当地域の持続的発展を支援し、もって人材の確保及び育成、雇用機会の拡充、住民福祉の向上、地域格差の是正並びに美しく風格ある国土の形成に寄与することを目的とするものです。

本計画では、地域の各分野における現況と問題点を踏まえながら、将来に向けてその具体的解決策など、地域の持続的発展の基本的方針に関する事項や目標等について記述しています。

なお、計画に位置づけられた掲載事業については、計画期間内での全事業の実施が確定したものではないことを申し添えます。

## 1. 基本的な事項

### (1) 十和田市の概況

#### 1) 自然的条件

##### ① 位置と地勢

本市は、青森県の県南地方内陸部に位置し、東部に位置する旧十和田市区域は、標高 70m 前後の三本木原台地が広がり、十和田湖を源とする「奥入瀬川」、人工河川「稻生川」など、多数の河川が台地を横断し太平洋へと流れています。当該区域は、古い歴史を有する農村地帯と「近代都市計画のルーツ」といわれる整然と区画された市街地とで形成されています。

西部には、過疎地域に指定されている面積 408.87 km<sup>2</sup>の旧十和田湖町区域があり、縦走する奥羽山脈の大岳、高田大岳などの八甲田山系や十和田山、十和利山などの山地が広がり、その西南には面積 61 km<sup>2</sup>、海拔 400m、水深 326.8m の十和田湖（二重カルデラ湖）があります。区域の大半は十和田八幡平国立公園に含まれ、国の特別名勝及び天然記念物に指定されている十和田湖と奥入瀬溪流があります。

また、本市の骨格を形成する幹線道路として、首都圏と青森市を結ぶ国道 4 号や本市と八戸市方面を結ぶ国道 45 号、十和田湖へ連絡する国道 102 号などの国道が東西南北に走っています。

##### ② 気象

本市は太平洋側気候に属しており、東部は年間を通じて降水量が少なく、比較的穏やかな気候となっています。

積雪量は、県内にあっては少ない地域に属するものの、旧十和田湖町区域は特別豪雪地帯に指定されています。

### 気象概況(青森地方気象台)

#### [十和田観測所]

	年平均気温 (℃)	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	年間降水量 (mm)	日照時間 (h)
平成 28 年	10.1	35.0	-14.3	1,231.0	1,826.2
平成 29 年	9.7	35.1	-14.5	1,068.0	1,858.8
平成 30 年	10.0	34.5	-15.7	1,225.5	1,812.2
令和元年	10.2	34.2	-15.0	844.5	1,994.9
令和 2 年	10.4	35.1	-16.1	1,236.5	1,676.1
平均	10.1	34.8	-15.1	1,121.1	1,833.6

## 〔休屋観測所〕

	年平均気温 (℃)	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	年間降水量 (mm)	日照時間 (h)
平成 28 年	8.2	32.5	-11.8	1,710.0	1,380.2
平成 29 年	7.8	30.8	-13.4	1,775.0	1,358.9
平成 30 年	8.2	32.3	-13.3	1,800.0	1,389.5
令和 元年	8.5	32.6	-11.4	1,211.5	1,543.6
令和 2 年	8.6	32.8	-11.7	1,542.0	1,268.0
平均	8.3	32.2	-12.3	1,607.7	1,388.0

## 2) 歴史的条件

旧十和田市区域の歴史は、古くは縄文時代に遡ります。平安・鎌倉期からの歴史を有する農村地域と、安政 6 (1859) 年の稲生川上水等によって拓かれた市街地で形成されています。

昭和 30 (1955) 年 2 月に「三本木町」「大深内村」「藤坂村」が合併し、「三本木市」となり、同年 3 月には「四和村」が編入、昭和 31 (1956) 年 10 月には「十和田市」と改称しました。

旧十和田湖町区域は、藩政時代は南部藩に属し、享保 20 (1735) 年の代官所設置に伴って、奥瀬地区、沢田地区は五戸代官所に、法量地区は七戸代官所の統治下に置かれました。

明治 4 (1871) 年の廃藩置県によって 3 地区は「斗南県」に編入となり、明治 12 (1879) 年に「法量村」「奥瀬村」「沢田村」として独立しました。明治 16 (1883) 年には行政区域の改正により 3 か村を併合しました。明治 22 (1889) 年の町村制の施行により、3 か村の頭文字をとって「法奥沢村」と改称しました。

昭和 6 (1931) 年には「十和田村」と改称し、昭和 30 (1955) 年 4 月に町村制の施行によって「十和田町」となりました。昭和 50 (1975) 年 4 月、町村 20 周年を機に、景勝地十和田湖を有する町として「十和田湖町」と改称しました。

そして、「十和田市」「十和田湖町」が平成 17 (2005) 年 1 月に新設合併し、現在の「十和田市」に至っています。

## 3) 社会経済的諸条件

## ① 土地利用

本市の面積は、725.65 km<sup>2</sup>で、県内で 3 番目に広い市域面積を有しています。

旧十和田湖町区域は、稲作や園芸作物に取り組む農業振興地域と、牧場や草地造成等による畜産や林業振興地域、ゴルフ場等のリゾート地域、十和田八幡平国立公園を中心とする観光地域、国道及び県道沿線の住居地域で構成されています。平成 22 (2010) 年度から令和 2 (2020) 年度までの年度別土地利用面積の推移状況を見ると、畑や牧場、原野などの土地利用が減少傾向にあります。

旧十和田市区域では、田・畑・山林は総面積の約 60%を占めています。平成 22(2010)年度から令和 2 (2020) 年度までの年度別土地利用面積の推移状況を見ると、道路網の整備や住宅地などの都市的土地利用への転換が進み、田や牧場、原野などの土地利用は減少傾向を示しています。

### 年度別土地利用面積(旧十和田湖町区域)

(単位:ha, %)

	平成 22 年度		平成 27 年度		令和2年度	
	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比
田	1,742	4.3	1,745	4.3	1,712	4.2
畑	524	1.3	433	1.1	443	1.1
宅地	285	0.7	292	0.7	287	0.7
山林	32,161	78.7	32,197	78.7	32,362	79.1
牧場	290	0.7	289	0.7	247	0.6
原野	677	1.6	673	1.6	489	1.2
その他	5,209	12.7	5,258	12.9	5,347	13.1
計	40,888	100.0	40,887	100.0	40,887	100.0

### 年度別土地利用面積(旧十和田市区域)

(単位:ha, %)

	平成 22 年度		平成 27 年度		令和2年度	
	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比
田	7,346	23.2	7,311	23.1	7,121	22.5
畑	2,539	8.0	2,562	8.1	2,705	8.5
宅地	1,592	5.0	1,708	5.4	1,780	5.6
山林	8,782	27.7	8,758	27.6	9,052	28.6
牧場	193	0.6	191	0.6	156	0.5
原野	1,609	5.1	1,598	5.0	825	2.6
その他	9,618	30.4	9,550	30.2	10,039	31.7
計	31,679	100.0	31,678	100.0	31,678	100.0

資料:十和田市固定資産概要調書

※平成 27 年度以降の市総面積は平成 26 年国土交通省国土地理院の面積計測方法変更により 72,565ha となります。



## ② 人口及び世帯

本市の人口は、平成 27 (2015) 年 10 月 1 日現在 (国勢調査) で 63,429 人、世帯数 25,487 世帯となっています。

旧十和田湖町区域の人口は、昭和 35 (1960) 年において 10,870 人でしたが、昭和 50 (1975) 年には 8,701 人、平成 2 (1990) 年には 7,186 人、平成 17 (2005) 年には 5,623 人、平成 27 (2015) 年には 4,263 人と減少を続けています。

また、同区域の世帯数については、昭和 35 (1960) 年において 1,736 世帯、昭和 50 (1975) 年には 1,841 世帯、平成 2 (1990) 年には 1,986 世帯であったものが、平成 17 (2005) 年は 1,841 世帯、平成 27 (2015) 年には 1,492 世帯と近年は減少しています。

世帯当たりの構成人員をみると、昭和 35 (1960) 年の 6.3 人から平成 27 (2015) 年には 2.9 人と縮小しており、核家族化が進行しています。

## 人口及び世帯数

(単位:人,戸)

区分	人口			世帯数	世帯当たりの 構成人員
	男	女	計		
昭和 35 年	5,445	5,425	10,870	1,736	6.3
	27,443	28,789	56,232	10,422	5.4
昭和 50 年	4,131	4,570	8,701	1,841	4.7
	30,622	32,444	63,066	17,461	3.6
平成 2 年	3,437	3,749	7,186	1,986	3.6
	32,887	35,210	68,097	21,743	3.1
平成 17 年	2,681	2,942	5,623	1,841	3.1
	32,805	35,554	68,359	25,358	2.7
平成 27 年	2,038	2,225	4,263	1,492	2.9
	30,084	33,345	63,429	25,487	2.5

[上段:旧十和田湖町, 下段:十和田市全体]

資料:国勢調査

## ③ 産業の概要

市全体の平成 27 (2015) 年時における産業別就業人口は、第 3 次産業が最も多く 20,510 人、次いで第 2 次産業 6,821 人、第 1 次産業 3,767 人の順となっています。

旧十和田湖町区域の平成 27 (2015) 年時における産業別就業人口は、第 3 次産業が最も多く 1,357 人、次いで第 1 次産業 610 人、第 2 次産業 442 人の順となっています。

旧十和田湖町区域では、第 1 次産業の農林畜産業と第 3 次産業の観光・レクリエーション産業が基幹産業となっていますが、第 1 次産業は、経営農地規模が小さな零細農家が多く、加えて、兼業化の進行や、農業従事者の高齢化と後継者不足等により厳

しい環境にあり、年々、農家人口は減少しています。

また、観光・レクリエーション産業の就業人口についても減少傾向にあります。

## 就業人口

(単位:人,%)

区分	昭和 35 年		昭和 50 年		平成 2 年		平成 17 年		平成 27 年	
		構成比		構成比		構成比		構成比		構成比
総数	5,844	100.0	5,079	100.0	4,195	100.0	3,177	100.0	2,409	100.0
	26,978	100.0	32,098	100.0	34,966	100.0	34,704	100.0	31,098	100.0
第1次 産業	3,901	66.8	2,321	45.7	1,318	31.4	774	24.4	610	25.3
	16,307	60.5	11,178	34.8	7,317	20.9	4,740	13.7	3,767	12.1
第2次 産業	692	11.8	581	11.4	840	20.0	666	21.0	442	18.4
	3,167	11.7	5,891	18.4	8,892	25.4	8,467	24.4	6,821	21.9
第3次 産業	1,251	21.4	2,177	42.9	2,037	48.6	1,737	54.6	1,357	56.3
	7,504	27.8	15,029	46.8	18,757	53.7	21,497	61.9	20,510	66.0

[上段:旧十和田湖町, 下段:十和田市全体]

※第三次産業は、分類不能の産業を含みます。

※四捨五入の関係で、合計値が一致しない場合があります。

資料:国勢調査

## 4) 過疎の状況

### ① 人口の動向

旧十和田湖町区域の人口が年々減少し続けたことから、昭和 55 (1980) 年 4 月 1 日に過疎地域の指定を受けています。

近年の人口動向は、平成 2 (1990) 年 7,186 人、平成 7 (1995) 年 6,728 人、平成 12 (2000) 年 6,267 人、平成 17 (2005) 年 5,623 人、平成 22 (2010) 年 4,884 人、平成 27 (2015) 年 4,263 人となっており、なお減少傾向にあります。

### ② 主な要因

旧十和田湖町区域の人口減少の要因としては、第 1 に、若年者の希望する就業の場が少ないこと、また、景気の低迷により奥入瀬溪流温泉や十和田湖畔地区の観光サービス業等への就業機会が減少したことによって、近隣市町村や県外に就労の場を求めて転出していることや、買い物等の日常生活を送る上での利便性の面から、他地域へ転出していること等による社会減があげられます。

第 2 には、出生率の低下等による自然減があげられます。

### ③ 旧過疎法等に基づく対策と評価

旧十和田湖町区域は、昭和 55（1980）年に過疎地域の指定を受け、過疎地域振興特別措置法、過疎地域活性化特別措置法、過疎地域自立促進特別措置法に基づき、これまでに産業振興策をはじめ、交通通信体系の整備や教育振興策など、過疎地域の自立促進に資する各種施策を推進してきました。

また一方で、緊急度の高い事業を優先させるなど、財政状況を勘案した上で適正規模の取組を進めてきたところです。

この結果、下水道整備や道路整備などのインフラ整備が着実に推進され、都市部との格差に改善がみられるなど、住民福祉の向上が図られてきています。

しかしながら、依然として人口減少に歯止めがかかっておらず、若者の流出を主な要因とした少子高齢化が進行しています。

### ④ 現状と課題

旧十和田湖町区域は過疎地域の指定を受けた以降、過疎地域振興計画、過疎地域活性化計画、過疎地域自立促進計画に基づき、若者定住対策事業として、奥入瀬ろまんパークの整備をはじめ、町営住宅の整備、小・中学校、幼稚園の施設・設備の整備、十和田湖診療所の設備の整備、消防団の施設・設備の整備、奥入瀬溪流館やふれあい広場、八甲田パノラマパークゴルフ場、ゲートボール場、十和田湖総合運動公園の改修、道路や橋梁、公共下水道、農業集落排水、簡易水道などの整備を推進し、当該区域の社会基盤の整備・充実に努めてきたところです。

また、近年では十和田湖診療所への医師確保対策や小・中学生の遠距離通学支援などのソフト事業や焼山地区活性化事業など地域の資源を活用した産業振興策にも計画的に取り組んでいます。

しかしながら、人口減少や少子高齢化の進展、自治体における厳しい財政状況等を背景に、地域社会を担う人財の確保、地域経済の活性化、情報化、交通の機能の確保及び向上、医療提供体制の確保、教育環境の整備、集落の維持及び活性化、農地、森林等の適正な管理等が地域の活性化を図る上で喫緊の課題となっています。

今後、過疎地域を脱却し非過疎地域となるためには、まずもって住民生活の利便性を向上させることによる定住人口の拡大や、移住者の増加、革新的な技術の創出、情報通信技術を利用した働き方への取組といった過疎地域の課題の解決に資する動きを加速させ、地域の自立に向けて、過疎地域における持続可能な地域社会の形成及び地域資源等を活用した地域活力の更なる向上が実現するよう、全力を挙げて取り組むことが極めて重要です。

## 5) 社会経済的発展の方向

### ① 産業構造の変化

旧十和田湖町区域の産業別総生産額〔平成 15（2003）年〕は、第3次産業が全体の 81.8%と最も高く、特に観光に係るサービス業が大半を占めています。平成 12（2000）年から平成 15（2003）年までの動向を見ると、第1次産業と第2次産業は

減少傾向にあり、第3次産業は微増傾向となっています。

十和田市全体の産業別総生産額〔平成30(2018)年〕は、全体の75.9%を第3次産業が占めています。平成18(2006)年から平成30(2018)年までの動向を見ると、第1次産業は増加傾向、第3次産業は減少傾向を示しています。

### 産業別総生産額(旧十和田湖町)

(単位:百万円, %)

区分	平成12年		平成13年		平成14年		平成15年	
	実額	構成比	実額	構成比	実額	構成比	実額	構成比
第1次産業	2,181	11.0	1,490	7.4	1,417	7.3	928	4.9
農業	1,311	6.6	1,115	5.5	1,056	5.4	547	2.9
林業	869	4.4	373	1.8	360	1.8	378	2.0
水産業	1	0.0	2	0.0	2	0.0	2	0.0
第2次産業	2,838	14.3	2,874	14.2	2,775	14.2	2,493	13.3
鉱業	55	0.3	42	0.2	36	0.2	16	0.1
製造業	384	1.9	274	1.4	373	1.9	329	1.8
建設業	2,399	12.1	2,558	12.7	2,367	12.1	2,148	11.5
第3次産業	14,862	74.8	15,832	78.4	15,315	78.5	15,336	81.8
電気・ガス・水道業	1,231	6.2	1,318	6.5	391	2.0	378	2.0
卸売・小売業	726	3.7	752	3.7	760	3.9	768	4.1
金融・保険業	299	1.5	362	1.8	402	2.1	391	2.1
不動産業	1,300	6.5	1,307	6.5	1,315	6.7	1,308	7.0
運輸・通信業	717	3.6	677	3.4	723	3.7	783	4.2
サービス業	6,877	34.6	7,890	39.1	8,125	41.6	8,177	43.6
政府サービス生産者	3,633	18.3	3,482	17.2	3,542	18.2	3,475	18.5
対家計民間非営利サービス生産者	80	0.4	45	0.2	55	0.3	56	0.3
小計	19,881	100.0	20,195	100.0	19,508	100.0	18,757	100.0
輸入品に課される税・関税	53	0.3	56	0.3	58	0.3	56	0.3
(控除)総資本形成に係る消費税	137	0.7	135	0.7	117	0.6	99	0.5
(控除)帰属利子	641	3.2	764	3.8	809	4.1	778	4.1
町内総生産	19,156	96.4	19,532	96.7	18,639	95.5	17,935	95.6

資料:平成16年度市町村民経済計算

※四捨五入の関係で、合計値が一致しない場合があります。

## 産業別総生産額(十和田市全体)

(単位:百万円, %)

区分	平成 18 年		平成 22 年		平成 27 年		平成 30 年	
	実額	構成比	実額	構成比	実額	構成比	実額	構成比
第1次産業	9,906	4.8	11,358	6.3	13,712	7.2	14,200	7.5
農業	9,605	4.7	10,999	6.1	13,240	7.0	13,744	7.3
林業	247	0.1	301	0.2	387	0.2	356	0.2
水産業	53	0.0	58	0.0	85	0.0	101	0.1
第2次産業	38,585	19.0	24,186	13.4	31,721	16.7	31,299	16.6
鉱業	1,118	0.6	410	0.2	418	0.2	328	0.2
製造業	21,157	10.4	15,128	8.4	21,992	11.6	19,846	10.5
建設業	16,310	8.0	8,648	4.8	9,311	4.9	11,125	5.9
第3次産業	154,906	76.2	144,561	80.3	144,409	76.1	143,138	75.9
電気・ガス・水道業	6,681	3.3	5,816	3.2	7,014	3.7	6,230	3.3
卸売・小売業	27,892	13.7	24,185	13.4	25,246	13.3	24,116	12.8
運輸・郵便業	10,711	5.3	9,432	5.2	8,312	4.4	8,062	4.3
宿泊・飲食サービス業	8,131	4.0	6,143	3.4	5,166	2.7	5,446	2.9
情報通信業	2,632	1.3	1,740	1.0	979	0.5	458	0.2
金融・保険業	7,827	3.8	5,794	3.2	5,890	3.1	6,055	3.2
不動産業	24,060	11.8	24,777	13.8	23,757	12.5	23,224	12.3
専門・科学技術、業 務支援サービス業	9,026	4.4	10,771	6.0	10,307	5.4	10,505	5.6
公務	14,548	7.2	13,599	7.6	14,149	7.5	14,303	7.6
教育	10,264	5.0	10,144	5.6	10,263	5.4	10,580	5.6
保健衛生・社会事業	19,046	9.4	20,034	11.1	21,389	11.3	22,512	11.9
その他のサービス業	14,089	6.9	12,127	6.7	11,938	6.3	11,648	6.2
小計	203,397	100.0	180,104	100.0	189,842	100.0	188,637	100.0
輸入品に課される税・関税	797	0.4	468	0.3	951	0.5	1,158	0.6
(控除)総資本形成に 係る消費税	1,174	0.6	865	0.5	1,639	0.9	2,234	1.2
市内総生産	203,020	99.8	179,707	99.8	189,153	99.6	187,562	99.4

資料:平成 30 年度市町村民経済計算

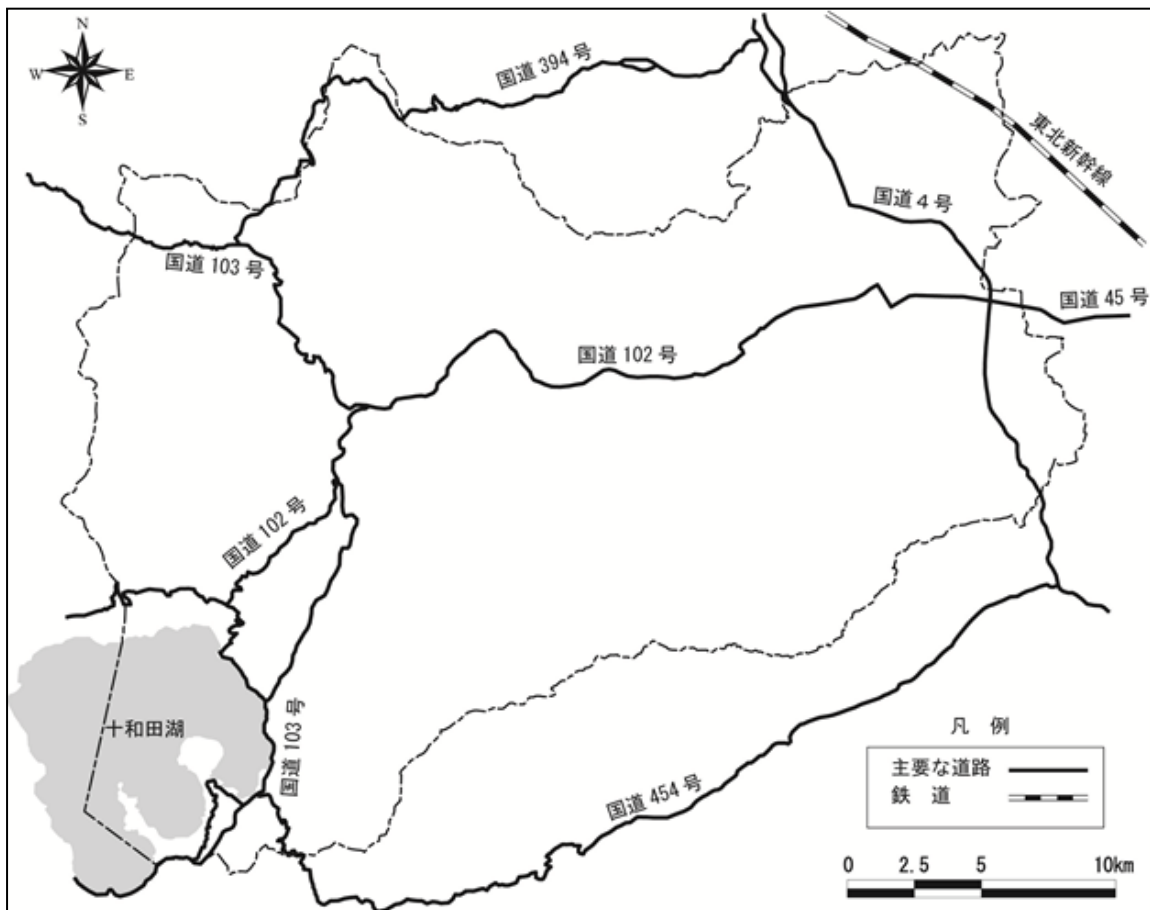
※四捨五入の関係で、合計値が一致しない場合があります。

## ② 地域の経済的な立地特性

旧十和田市区域は、南北に縦貫している国道4号に、八戸市へ至る国道45号と十和田八幡平国立公園へ至る国道102号が接続する交通の要衝となっており、上十三圏域の中心都市としての基盤的条件を有しているが、都市機能集積が比較的小規模であること等から、周辺地域との連携強化の中で、個性ある都市機能整備を推進していくことが必要となっています。

一方、旧十和田湖町区域は、国道102号が東西軸、国道103号が南北軸を成し、補完する幹線道路として国道454号、394号と3本の県道があり、この幹線道路に農林道及び生活道路が接続し交通網を形成しています。

### 幹線道路網の状況



また、豊かな自然環境を生かした農林畜産業及び「十和田湖」「奥入瀬溪流」「蔦温泉・猿倉温泉・谷地温泉といった温泉群」等の豊富な資源を活用した観光・レクリエーション産業が主要産業となっていることが当区域の経済的特性であり、地域社会経済の発展を図る上で、豊かな自然との調和という視点での自然環境や景観の保全・整備を推進していくことが必要となっています。

### ③ 青森県基本計画との関連

青森県基本計画では、県民の基盤である生活の創造・発展を志向する社会として位置付けた「生活創造社会」をめざす姿としています。

今後、本県を取り巻く社会経済環境が、人口減少と少子化、高齢化の一層の進行、労働力不足、将来訪れる超高齢化時代、グローバル化の更なる進展などにより大きく変化し、また第4次産業革命の進展など時代の転換点を迎える中で人口が減少しても持続可能な、そして魅力ある青森県づくりを進めていくこととしています。

具体的には、引き続き県民一人ひとりの豊かな生活を支える経済的な基盤となる「生業（なりわい）」づくりを積極的に進めるとともに、「生業」によって得られた成果（収入等）を更なるスキルアップやネットワークづくり、余暇の充実、そして人口減少下で生じる様々な社会的課題の解決に活用していくことなどにより、個人の生活や地域社会全体の生活の質の向上につなげていくこととしています。また、そのことが、新たなサービスを提供する人の「生業」づくりや新たな人財の流入・定着を生み出していくことにもつながっていく、「生業」と「生活」の好循環する地域をめざし「世界が認める「青森ブランド」の確立」に向けて取組を進めることとしています。

計画に掲げる「生活創造社会」をめざす姿とし、地域の現状や課題を踏まえた上で、市町村等と連携し、本県の「多様性」と「可能性」を示しながら、人口が減少しても安心して暮らせる、持続可能な青森県づくりをめざすこととしています。

### ④ 上十三・十和田湖広域定住自立圏構想との関連

上十三地域に属する、本市、三沢市、野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村及びおいらせ町並びに秋田県小坂町の10市町村は、古くから地理的、歴史的な繋がりが深く、一体的な生活圏を形成しています。

このような背景のもと、平成24（2012）年度、当該10市町村において、上十三・十和田湖広域定住自立圏形成協定を締結し、その協定に基づき、具体的な連携事業計画等を掲載した定住自立圏共生ビジョンを策定しています。現在は、平成29（2017）年度に策定した第2次共生ビジョンに掲載した具体的な事業に圏域市町村が連携して取り組んでいます。

本圏域では、人口減少、少子高齢化が進む中で、関係市町村が連携・協力し合いながら地域住民の生活機能を確保し、当圏域への人の流れの創出に努めるなど、人口減少の抑止を目指していくこととしています。

### ⑤ 社会経済的発展の方向

旧十和田湖町区域の基幹産業は、第1次産業の農業と第3次産業の観光サービス業です。

さらにこれらを発展させ地域振興を図っていくためには、通年観光の確立と雇用の場の創出、地場産業の振興、さらには意欲ある高齢者や女性が働きやすい労働環境づくり、若者が魅力を感じる産業づくりなどの振興策が必要となっています。

## (2) 人口及び産業の推移と動向

## 1) 人口の推移

## ① 年齢階層別の人口の推移等

平成 27 (2015) 年における若年者人口 (15~29 歳) の割合は旧十和田湖町区域が 9.4%、十和田市全体が 13.2% となっており、昭和 50 (1975) 年と比べると旧十和田湖町区域が 14.5 ポイント、十和田市全体が 12.9 ポイント、それぞれ減少しています。

一方、65 歳以上の老年人口 (65 歳以上) の割合は、旧十和田湖町区域が 40.3%、十和田市全体が 30.1% となっており、昭和 50 (1975) 年と比べると旧十和田湖町区域が 31.6 ポイント、23.8 ポイント、それぞれ増加しています。

旧十和田湖町区域の人口は、平成 27 (2015) 年時点で 4,263 人であり、平成 17 (2005) 年と比べ 24.2% の減、平成 2 (1990) 年と比べ 40.7% の減、昭和 50 (1975) 年と比べ 51.0% の減、また昭和 35 (1960) 年と比べると 60.8% 減と大幅な減少となっています。

年齢階層別では、14 歳以下の層の人口減少が最も著しく、昭和 35 (1960) 年から平成 27 (2015) 年までの間に 90.4% も減少しています。また、15 歳~64 歳の年齢階層で 66.5% 減少しているのに対し、65 歳以上は 238.7% の増加となっており、少子高齢化の進行が顕著となっています。

旧十和田湖町区域と旧十和田市区域の合計人口は、昭和 35 (1960) 年時点で 56,232 人であり、そのうち旧十和田湖町区域の人口は 10,870 人で人口の約 19% を占めていましたが、昭和 50 (1975) 年時では約 14%、平成 2 (1990) 年時では約 11%、平成 17 (2005) 年時では約 8%、平成 27 (2015) 年時では市全体の人口 63,429 人のうち旧十和田湖町区域の人口は 4,263 人となり、割合は約 7% と市全体の人口に占める割合は年々減少しています。

表 1-1 (1) 人口の推移

「旧十和田湖町区域」

区分	昭和35年	昭和50年		平成2年		平成17年		平成27年	
	実数	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率
総数	10,870	8,701	△20.0%	7,186	△33.9%	5,623	△48.3%	4,263	△60.8%
0歳~14歳	3,863	1,954	△49.4%	1,224	△68.3%	633	△83.6%	369	△90.4%
15歳~64歳	6,501	5,986	△7.9%	4,709	△27.6%	3,288	△49.4%	2,178	△66.5%
うち 15歳~29歳 (a)	2,818	2,077	△26.3%	1,091	△61.3%	706	△74.9%	402	△85.7%
65歳以上 (b)	506	761	50.4%	1,253	147.6%	1,702	236.4%	1,716	238.7%
(a)/総数 若年者比率	25.9%	23.9%	-	15.2%	-	12.6%	-	9.4%	-
(b)/総数 高齢者比率	4.7%	8.7%	-	17.4%	-	30.3%	-	40.3%	-

※65歳以上は、年齢不詳を含みます。

資料：国勢調査



### 1-1 (1) 人口の推移

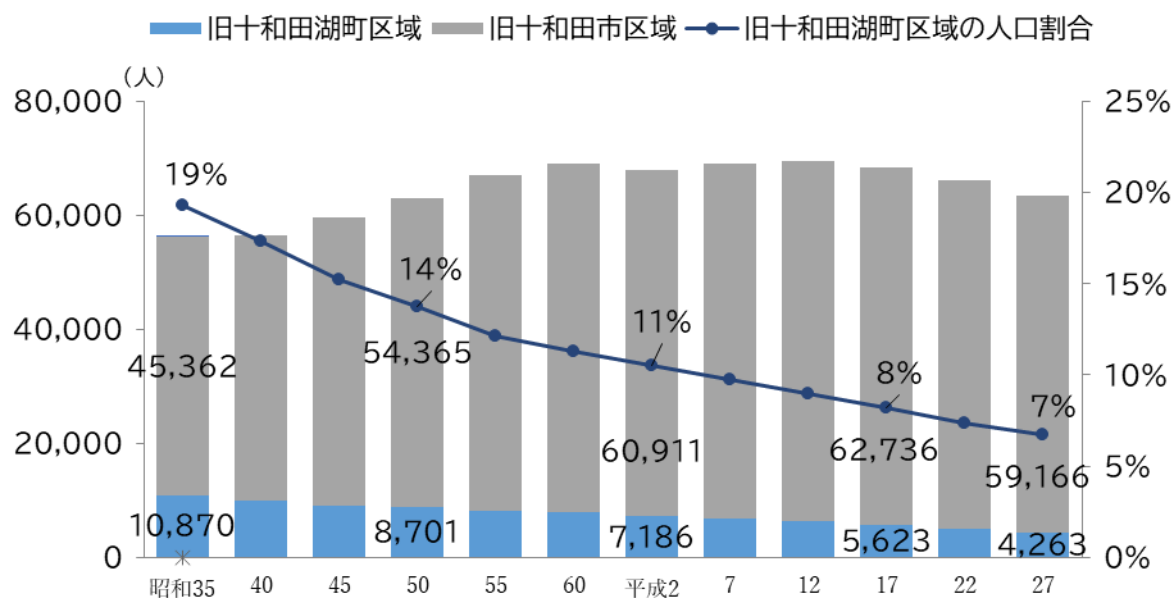
「十和田市全体」

区分	昭和35年	昭和50年		平成2年		平成17年		平成27年	
	実数	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率
総数	56,232	63,066	12.2%	68,097	21.1%	68,359	21.6%	63,429	12.8%
0歳~14歳	20,617	16,205	△21.4%	13,853	△32.8%	9,801	△52.5%	7,325	△64.5%
15歳~64歳	33,177	42,880	29.2%	46,357	39.7%	43,971	32.5%	37,028	△11.6%
うち 15歳~29歳 (a)	14,648	16,467	12.4%	13,040	△11.0%	11,291	△22.9%	8,358	△42.9%
65歳以上 (b)	2,438	3,981	63.3%	7,887	223.5%	14,587	498.3%	19,076	673.2%
(a)/総数 若年者比率	26.0%	26.1%	-	19.1%	-	16.5%	-	13.2%	-
(b)/総数 高齢者比率	4.3%	6.3%	-	11.6%	-	21.3%	-	30.1%	-

※65歳以上は、年齢不詳を含みます。

資料：国勢調査

### 1-1 (1) 人口の推移



資料：国勢調査

② 今後の見通し

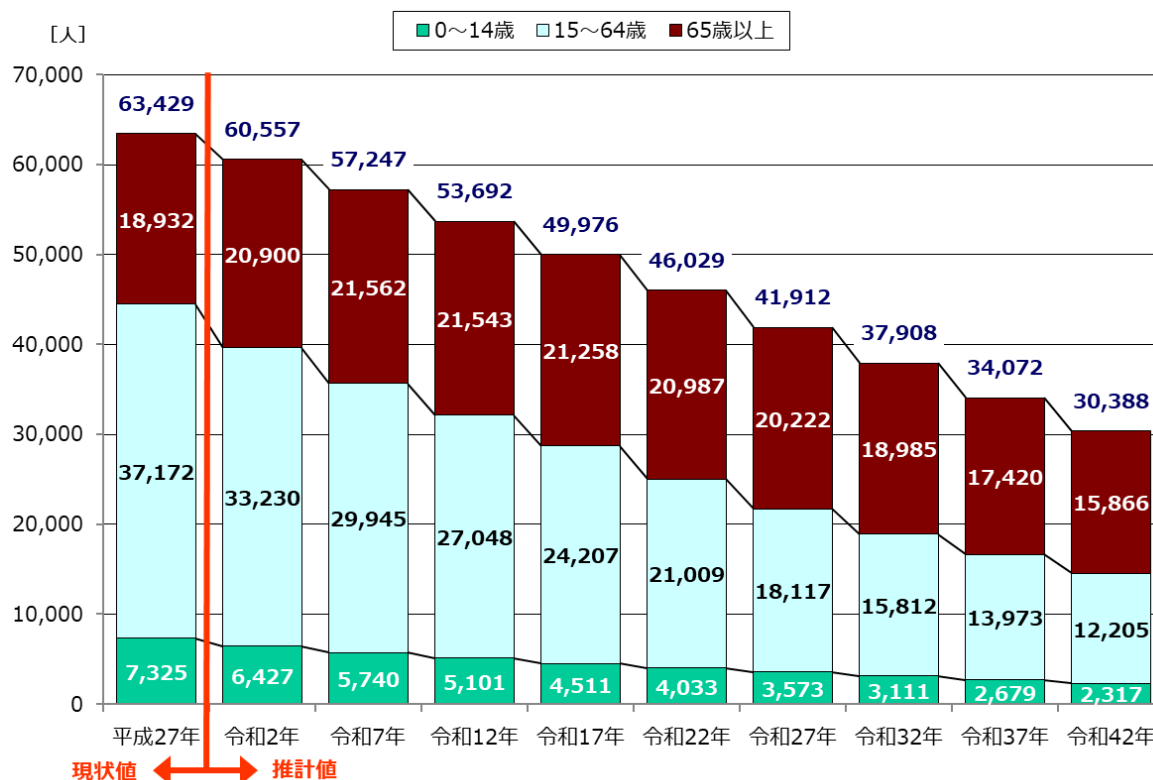
国立社会保障・人口問題研究所に準拠した推計（以下、「社人研推計」といいます。）では、十和田市全体の人口は令和 22（2040）年には 46,029 人、令和 42（2060）年には 30,388 人まで減少すると推計されています。

また、旧十和田湖町区域の将来推計人口をコーホート変化率法※により推計すると、令和 22（2040）年には 2,095 人、令和 42（2060）年には 968 人まで減少すると推計されます。

※コーホート変化率法…過去の実績人口の動勢から変化率を求め、それに基づき将来人口を推計する方法。社人研推計とは異なる推計方法

表 1-1（2）人口の見通し(社人研推計人口)

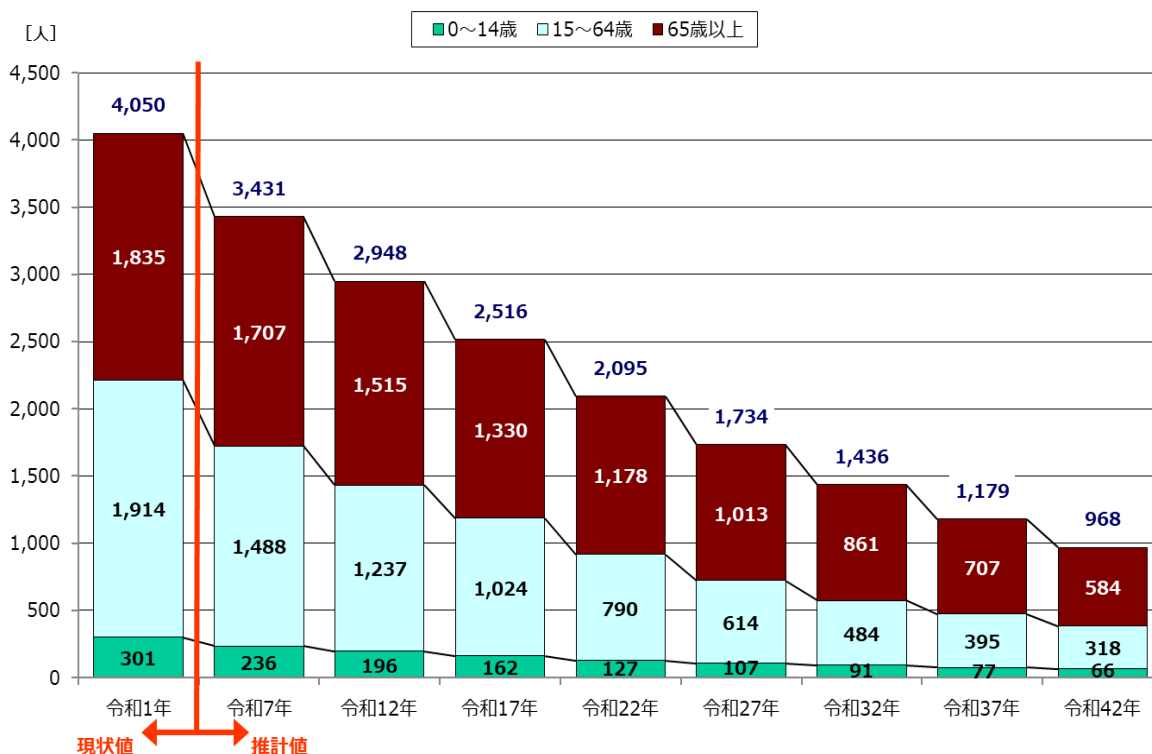
「十和田市全体」



出典：十和田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(令和2年改訂)・第2期総合戦略

表 1-1 (2) 人口の見通し (コーホート変化率法による推計)

「旧十和田湖町区域」



※十和田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(令和2年改訂)・第2期総合戦略より算出

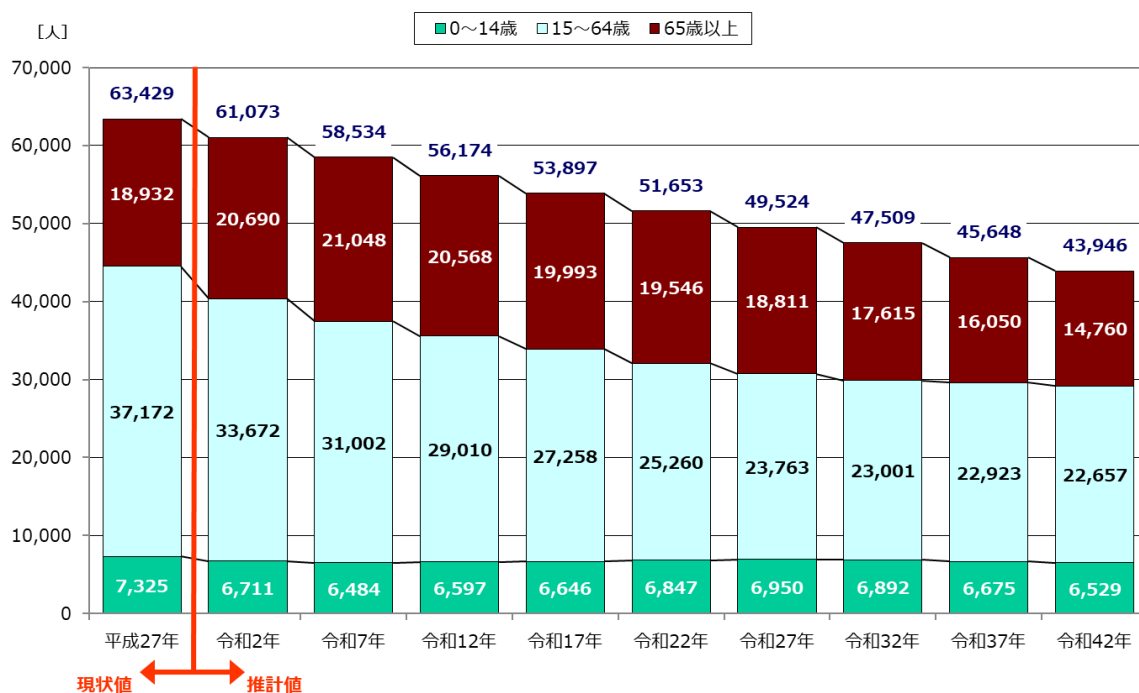
十和田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(令和2年改訂)・第2期総合戦略では、若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえるための施策に取り組むことで、令和22(2040)年を目処に希望出生率2.08<sup>\*</sup>を達成し、また定住促進、UIJターン支援等による移住促進に取り組むことで、令和12(2030)年を目処に、社会減が漸次均衡に向かうと仮定した場合、令和22(2040)年の十和田市全体の将来展望人口は51,653人と予測されています。

年齢3区分別にみると、年少人口は6,847人、生産年齢人口は25,260人、老年人口は19,546人となっています。

また、令和42(2060)年の将来展望人口は43,946人と予測され、年齢3区分別にみると、年少人口は6,529人、生産年齢人口は22,657人、老年人口は14,760人となっています。

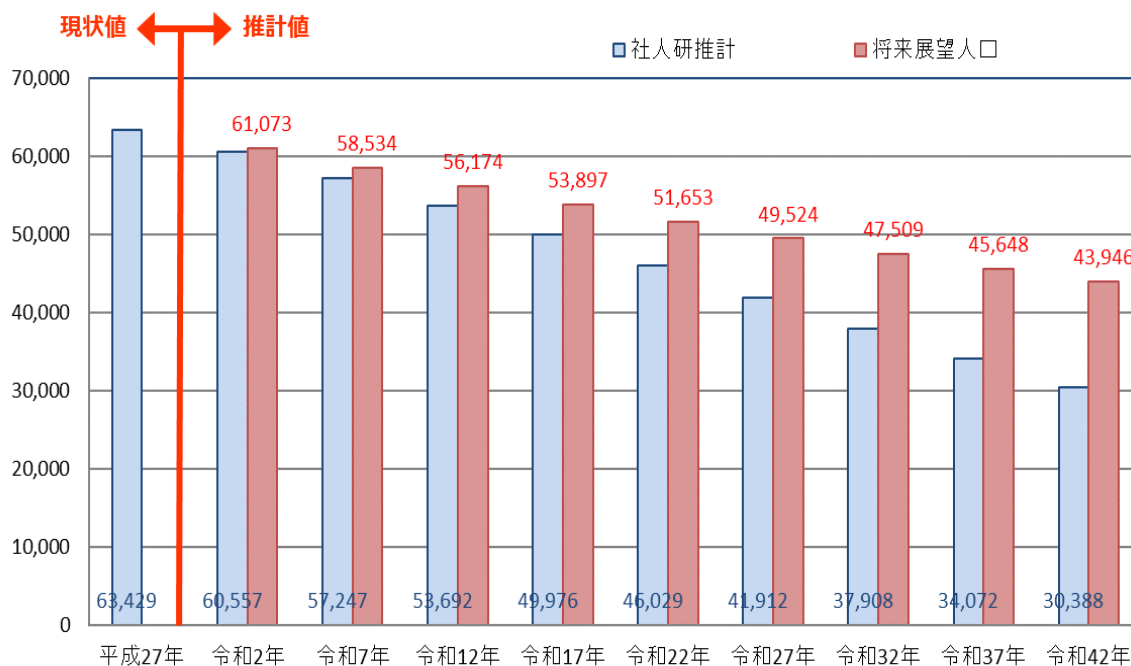
※希望出生率…市民アンケートの調査結果から算出した市民の希望する出生率

表 1-1 (2) 人口の見通し(将来展望人口)



出典:十和田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(令和2年改訂)・第2期総合戦略

表 1-1 (2) 人口の見通し(社人研推計人口と将来展望人口の比較)



出典:十和田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(令和2年改訂)・第2期総合戦略

## 2) 産業構造の推移

旧十和田湖町区域の平成 27 (2015) 年時における産業別就業人口比率は、第 1 次産業 25.3%、第 2 次産業 18.4%、第 3 次産業 56.3%であり、観光サービス業への就業者が多くなっています。

産業別就業人口比率の推移は、平成 17 (2005) 年に第 1 次産業が減少傾向から増加に転じ、第 2 次産業が増加傾向から減少に転じています。また、第 3 次産業は増加しています。

十和田市全体の平成 27 (2015) 年時における産業別就業人口比率は、第 1 次産業 12.1%、第 2 次産業 21.9%、第 3 次産業 66.0%となっています。

産業別就業人口比率の推移は、第 1 次産業及び第 2 次産業が減少しているのに対し、第 3 次産業が増加傾向にあります。

第 1 次産業就業人口比率減少の主な要因としては、農業従事者の高齢化と後継者不足などがあげられます。

### 産業人口の動向

「旧十和田湖町区域」

区 分	昭和35年		昭和 50 年		平成2年		平成 17 年		平成 27 年	
	実 数	増減率	実 数	増減率	実 数	増減率	実 数	増減率	実 数	増減率
総 数	5,844		5,079	△13.1	4,195	△17.4	3,177	△17.4	2,409	△24.2
第 1 次 産 業 就業人口比率	66.8		45.7	-	31.4	-	24.4	-	25.3	-
第 2 次 産 業 就業人口比率	11.8		11.4	-	20.0	-	21.0	-	18.4	-
第 3 次 産 業 就業人口比率	21.4		42.9	-	48.6	-	54.6	-	56.3	-

「十和田市全体」

区 分	昭和35年		昭和 50 年		平成2年		平成 17 年		平成 27 年	
	実 数	増減率	実 数	増減率	実 数	増減率	実 数	増減率	実 数	増減率
総 数	26,978		32,098	19.6	34,966	8.9	34,704	△0.7	31,098	△10.4
第 1 次 産 業 就業人口比率	60.5		34.8	-	20.9	-	13.7	-	12.1	-
第 2 次 産 業 就業人口比率	11.7		18.4	-	25.4	-	24.4	-	21.9	-
第 3 次 産 業 就業人口比率	27.8		46.8	-	53.7	-	61.9	-	66.0	-

※第3次産業は、分類不能の産業を含みます。

※四捨五入の関係で、合計値が一致しない場合があります。

資料：国勢調査

### (3) 行財政の状況

#### 1) 行政の状況

「旧十和田市」と「旧十和田湖町」が新設合併を行い、新「十和田市」が平成 17 (2005) 年 1 月 1 日に誕生しました。

これまで、最少の経費で最大の効果をあげるため、組織や事務事業の見直し、民間委託の推進等、様々な行政改革の取組を行ってきたところです。

十和田市の行政機構は、市長部局、教育委員会、議会、選挙管理委員会、監査委員、農業委員会の各事務局で構成されています。また、公営企業として、水道事業、下水道事業、病院事業を設置しています。

現在は、平成 22 (2010) 年度から取り組んでいる「事務事業評価」を実施するとともに、令和 2 (2020) 年 3 月に策定された「第 4 次十和田市行政改革大綱」に取り組み、これまで以上に効率的な行政運営に努めていくこととしています。

広域行政に関しては、十和田地域広域事務組合（消防、学校給食、清掃、火葬、し尿処理）、上北地方教育・福祉事務組合に加入し、他の構成市町村と連携しながら業務の効率化を図っています。

#### 2) 財政の状況

十和田市全体における令和元 (2019) 年度一般会計決算の状況は、歳入総額 35,280,150 千円、歳出総額 33,756,016 千円となり、平成 27 (2015) 年度と比較すると、歳入で 16.0%増、歳出で 16.3%増、平成 22 (2010) 年度と比較すると、歳入で 15.6%増、歳出で 14.8%増となっています。

平成 22 (2010) 年度と比較すると歳入では、一般財源 0.3%、国庫支出金 43.2%、県支出金 17.1%、地方債は 233.9%とそれぞれ増加しています。歳出では、義務的経費が 1.8%、投資的経費は 256.9%増加しています。

平成 27 (2015) 年度と比較すると、歳入では一般財源 1.4%、県支出金 4.9%とそれぞれ減少し、国庫支出金 26.1%、地方債は 365.0%とそれぞれ増加しています。歳出では、義務的経費が 2.7%減少し、投資的経費は 372.1%増加しています。

今後の見通しとしては、歳入においては新型コロナウイルス感染症の影響による市税の減収が複数年見込まれることに加え、少子高齢化や人口減少社会の進展による個人住民税の伸び悩みや、国税の減収に伴う地方交付税の減少が見込まれます。

一方、歳出では公共施設等総合管理計画等に基づく大規模建設事業や老朽化が進んでいる公共施設の解体、建替、維持補修等の実施、幼児教育・保育の無償化や高齢化による社会保障関連経費の増加に加え、新型コロナウイルス感染症に伴う新たな対応など、今後も財政を取り巻く環境は厳しい状況で推移することが見込まれます。

このことから、これまで以上に主要な事業の選択と集中、成果や評価に基づく重点化など、必要性・有益性を踏まえた事業を展開し、健全な財政運営を進める必要があります。

表 1-2 (1) 市町村財政の状況

(単位:千円)

区 分	平成 22 年度	平成 27 年度	令和元年度
歳入総額 A	30,527,952	30,410,659	35,280,150
一般財源	18,592,467	18,912,995	18,639,585
国庫支出金	3,882,879	4,407,841	5,560,311
県支出金	2,719,916	3,348,896	3,184,506
地方債	2,205,700	1,413,400	5,158,600
うち過疎対策事業債	43,900	70,000	147,700
その他	3,126,990	2,327,527	2,737,148
歳出総額 B	29,407,912	29,012,669	33,756,016
義務的経費	13,581,494	14,214,162	13,832,315
投資的経費	2,445,957	1,688,973	6,284,760
うち普通建設事業	2,445,957	1,681,784	6,257,869
その他	13,321,916	13,015,729	13,412,118
過疎対策事業費	58,545	93,805	226,086
歳入歳出差引額 C(A-B)	1,120,040	1,397,990	1,524,134
翌年度へ繰越すべき財源 D	131,197	108,264	175,682
実質収支 C-D	988,843	1,289,726	226,823
財政力指数	0.41	0.40	0.43
公債費負担比率	15.7 %	16.0 %	13.1 %
実質公債費比率	15.4 %	12.0 %	8.7 %
起債制限比率	—	—	—
経常収支比率	89.2 %	91.3 %	89.4 %
将来負担比率	121.3 %	21.5 %	—
地方債現在高	35,346,670	29,943,396	31,153,857

資料:地方財政状況調等

## 3) 主要公共施設等の整備状況

主要公共施設等の整備状況は表1-2(2)のとおりとなります。

旧十和田湖町区域においては、地域住民によるコミュニティ活動や生涯学習の場となる西コミュニティセンターや、社会教育施設として郷土館、十和田湖民俗資料館が設置されています。体育施設は、十和田湖総合運動公園、アネックススポーツランド、八甲田パノラマパークゴルフ場を整備しています。

今後、更なる地域振興を図っていくため、社会教育施設や体育施設等の改修、市道等を適切に管理するための維持補修等を実施していく必要があります。

表1-2(2) 主要公共施設等の整備状況

「旧十和田湖町区域」

区 分	昭和55年度末	平成2年度末	平成12年度末	平成22年度末	令和元年度末
市町村道 改良率 (%)	7.8	10.1	19.1	34.5	36.4
〃 舗装率 (%)	66.6	63.5	62.0	62.2	68.2
農道 延長 (m)	—	—	—	—	—
耕地1ha当たり農道延長 (m)	45.0	45.7	62.9	—	—
林道 延長 (m)	61,467	86,222	94,142	94,181	94,181
林野1ha当たり林道延長 (m)	20.1	7.3	8.0	—	—
水道普及率 (%)	84.1	97.3	90.0	93.8	94.5
水洗化率 (%)	44.1	35.5	53.0	79.8	84.4
人口千人当たり病院、診療所の病床数 (床)	4.9	1.9	2.3	3.8	—

「十和田市全体」

区 分	昭和55年度末	平成2年度末	平成12年度末	平成22年度末	令和元年度末
市町村道 改良率 (%)	28.4	22.9	45.0	57.1	59.7
〃 舗装率 (%)	33.8	50.5	69.0	73.6	77.1
農道 延長 (m)	—	—	—	95,062	95,062
耕地1ha当たり農道延長 (m)	72.1	69.1	74.2	—	—
林道 延長 (m)	98,820	129,408	142,545	140,906	140,906
林野1ha当たり林道延長 (m)	14.0	7.7	8.3	—	—
水道普及率 (%)	93.1	93.4	96.6	98.5	99.1
水洗化率 (%)	10.8	32.5	61.0	76.5	87.8
人口千人当たり病院、診療所の病床数 (床)	21.2	25.9	22.6	18.9	17.6

資料：公共施設等状況調査等



## (4) 地域の持続的発展の基本方針

### 1) 過疎対策の成果と課題

旧十和田湖町区域は、昭和 55（1980）年 4 月 1 日に過疎地域の指定後、過疎計画策定の下で、住民福祉の向上や地域格差是正など、過疎対策の取組を進めながら、特色あるまちづくりを推進してきました。これまでの、総合的かつ重点的な過疎対策事業の展開によって、生活環境の改善、地域の活性化に一定の成果を上げてきたところです。

しかしながら、人口減少、少子高齢化の進展等、他の地域と比較して厳しい社会経済情勢が長期にわたり継続しており、過疎地域からの脱却という最終的な解決には至ってはいません。

厳しい財政状況の下、今後も効率的な社会基盤整備を図り、さらに地域社会を担う人財の確保、地域経済の活性化、情報化、交通の機能の確保及び向上、医療提供体制の確保、教育環境の整備、集落の維持及び活性化、農地、森林等の適正な管理などの喫緊の課題をいかに解決していくかが求められています。

### 2) 将来都市像

我が国は、世界にも類を見ないスピードで進展している少子高齢化を背景に、政治・経済から日常生活に至るまで様々な面で制度や仕組みが大幅な見直しを迫られる、時代の大きな転換期を迎えている状況にあります。

旧十和田湖町区域だけでなく、市全体でも若い世代を中心に、市外への人口流出に歯止めがかからない状況が続くとともに、基幹産業の一つである農業従事者の高齢化や後継者不足など、行政の力だけでは解決することが困難な厳しい事態に直面しています。

このような状況のもと、過疎地域である旧十和田湖町区域を含めた市全体が持続可能な地域社会の形成及び地域資源等を活用した地域活力の更なる向上が実現するよう、全力を挙げて取り組むことが極めて重要となります。

市では先人たちから大切に受け継いできた多彩な地域資源や、このまちに暮らす市民の知恵と力を最大限に活かし、様々な分野においてまちづくりを推進するため、第 1 次十和田市総合計画「感動・創造推進プラン十和田」に続く計画として、第 2 次十和田市総合計画を策定しています。

当該計画では、「～わたしたちが創る～ 希望と活力あふれる 十和田」を将来都市像に掲げ、その実現に向けたまちづくりの基本的な考え方（基本理念）や方向性（基本目標・政策）を示し、より多くの人々から「住みたい」「住み続けたい」「訪れたい」まちとして強く支持されるよう、総合的かつ計画的な行政運営を進めていくこととしています。

#### 【将来都市像】

～わたしたちが創る～  
希望と活力あふれる 十和田

### 3) 将来都市像実現のための基本目標(政策)

#### 【目標1】 市内外からより多くの人々や消費を呼び込めるまち(産業振興)

市内外からより多くの人々や消費を引き込み、自立性の向上を支える活発な経済活動が展開されるよう、豊かな自然の恵みと現代アートの魅力が融合した本市ならではの多彩な地域資源のブランド力を最大限に引き出すとともに、地域経済を支えている多様な主体との連携の中から新たな産業の創出を図ることにより、雇用の創出と足腰の強い産業経済基盤づくりを推進します。

#### 【目標2】 地域全体で子育て・子育てをしっかりと支えるまち(子育て・教育)

次世代を担う子どもたちが、健やかに生まれ、恵まれた環境のなかで元気に育つことができるよう、地域社会全体で子育て・子育てを温かく見守り、支える環境づくりを推進するとともに、学校教育をはじめとする教育環境の充実を図ります。

さらに、これまでの少子化の流れに歯止めをかけるため、結婚や出産の希望をかなえる取組として、結婚・妊娠・出産・子育てに対する切れ目のない支援体制を構築します。

#### 【目標3】 すべての市民が健やかに暮らせるまち(健康・福祉)

すべての市民が住み慣れた地域で安心して住み続けられる地域社会の実現を目指して、保健・医療・福祉機関との連携のもと、地域で支え合う仕組みづくりに取り組むとともに、いつまでも心身ともに健康で生き生きと自立した毎日を送ることができるよう、乳幼児から高齢者まで市民一人ひとりのライフステージに応じた総合的な健康づくりを推進します。

また、高齢者の地域生活を支える体制や、高齢者の豊富な経験・知識などを活かした活躍の場づくり、さらには障がい者の自立と社会参加の支援を推進します。

#### 【目標4】 だれもが楽しく学び、豊かな心と文化が息づくまち(生涯学習・文化・スポーツ)

だれもが気軽に、楽しく学び、心豊かに充実した毎日を送ることができるよう、学習機会の確保や情報の提供などを通じた自主的・自発的な学習活動の支援を推進するとともに、市民一人ひとりが生涯にわたって心身の健康を保持・増進し、体力の向上にも結び付くよう、「市民ひとり1スポーツ」の普及定着を図ります。

また、本市に対する強い誇りと深い愛情の醸成や地域社会の活力の向上に結び付くよう、文化芸術活動への支援や先人たちから大切に受け継いできた貴重な文化財の保護・活用を推進します。

#### 【目標5】 地域で助け合い、災害に強く犯罪のない、安全・安心なまち(安全・安心)

いつどこで遭遇するか分からない自然災害や犯罪の危険から市民の尊い生命と貴重な財産を守り、より安全で安心な市民生活を確保できるよう、市民一人ひとりが自ら備え、地域で共に助け合う地域主体の防災・防犯体制づくりの普及定着を図るとともに、ハード・ソフトの両面から、災害・犯罪の起こりにくい環境づくりを推進します。

さらに、市民一人ひとりが地域コミュニティの大切さについて理解を深め、活動に参加できるよう、コミュニティ活動の重要性に対する意識啓発を図るとともに、地域コミュニティの維持・再生に向けた地域主体の取組を支援します。

#### 【目標6】 ゆとりと潤いあふれる暮らしを実感できるまち(環境)

日常生活や経済活動における環境への負荷を軽減するとともに、ゆとりと潤いを実感できるまちの実現に向け、地域経済社会を構成する多様な主体が、それぞれの責任と役割に応じながら、良好な自然環境の保全・再生やエネルギー消費量の削減、ごみの適正処理などに取り組むことにより、市全体として環境にやさしいライフスタイルの普及定着を図ります。

**【目標7】 快適な暮らしや活発な経済活動を支える都市基盤が整ったまち(都市基盤)**

市内外からより多くの人々が集い、暮らし、活動する場の創出や、居住・商業・行政・教育・医療などの多様な都市機能の充実に努め、コンパクトで利便性と快適性を兼ね備えた中心市街地の形成を図ります。

また、将来的な人口減少・人口構造の変化や市全体から見た重要度・緊急度などを十分に踏まえながら、快適な暮らしや活発な経済活動に必要な不可欠な道路・上下水道・情報通信をはじめとする生活基盤施設及び既存集落の生活環境の整備を計画的に推進します。

**【目標8】 地域経済社会の持続的な発展を支える強固な経営基盤が確立したまち(自治体経営)**

「自分たちのまちは、自分たちでより良くする」という自主・自立の基本的考え方のもとに、地域社会を構成する多様な主体がそれぞれの責任と役割をしっかりと自覚し、自助・共助・公助を適切に組み合わせながら、相互の密接な連携と協力を根ざした協働のまちづくりを推進します。

また、市全体から見た費用対効果を十分に勘案しながら、選択と集中を徹底し、限りある行政経営資源を最適に活用するとともに、行財政改革を推進し、強固な経営基盤の確立を図ります。

## (5) 地域の持続的発展のための基本目標

地域の持続的発展の基本方針となる本市の最上位の行政計画である「第2次十和田市総合計画」のうち、人口減少対策に係る施策について、数値目標や方向性等を記載した「実施計画（アクションプラン）」として位置付けられる「十和田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（令和2年改訂）・第2期総合戦略」の目標を本計画の基本目標として設定します。

### 【基本目標1】 合計特殊出生率

基本目標	基準値	目標値
合計特殊出生率	1.45 【平成30(2018)年】	1.66 【令和7(2025)年】

### 【基本目標2】 社会増減数

基本目標	基準値	目標値
社会増減数	▲125人/年 【平成30(2018)年】	▲60人/年 【令和7(2025)年】

## (6) 計画の達成状況の評価に関する事項

施策や事業の実効性を確保するため、事務事業評価等において毎年度、計画の達成状況等の評価するとともに、PDCAサイクルにより必要な見直しを図ります。

## (7) 計画期間

計画期間は、令和3（2021）年4月1日から令和8（2026）年3月31日までの5か年間とします。

## (8) 公共施設等総合管理計画との整合

「十和田市公共施設等総合管理計画」は、中長期的な視点をもって公共施設等の更新・統廃合、長寿命化などを計画的に行うことにより、公共施設等の規模の適正化や有効利用、財政負担の軽減及び更新・改修・解体等事業費の平準化を図り、安心して利用できる公共施設等を将来にわたり持続的に提供していくとともに、効率的・効果的な公共施設等の最適な配置を実現することを目的として、平成29(2017)年3月に策定しています。

同計画は、施設の老朽化、人口減少や少子高齢化といった環境変化に対応し、必要な公共サービスを維持・確保していくとともに将来負担の軽減及び平準化を図るため、次の基本方針に基づき最適な公共施設等の管理を目指しています。

### 施設総量の適正化、適正配置

施設総量の縮減を基本とし、施設の複合化、多目的化、定住自立圏内の相互利用も含めた適正配置を進めます。

### 安全性の確保

適時の点検・診断等により、危険性が認められる施設への対応を迅速に行い、安全性を確保します。また、点検マニュアルを作成し、職員による自主点検を行います。

### 施設の長寿命化

予防保全の考えに立った維持管理により施設の長寿命化を図り、更新等費用の低減化を目指します。

### 効果的・効率的な管理運営

民間のノウハウや資金の活用により、効果的・効率的なサービス提供や財政負担の軽減を図ります。

### 現有資産の有効活用

施設統合等に伴う建替え用地については、新たに取得せず現有の市有地を利用し、経費の削減及び資産の有効利用を図ります。

本計画に記載された公共施設等の整備は「十和田市公共施設等総合管理計画」及び同計画に基づく、すべての個別計画に適合しており、この考え方を踏まえた持続可能な行財政運営を前提とした過疎対策を推進します。

## 2. 移住・定住・地域間交流の促進、人材育成

### (1) 現況と問題点

本市では、若い世代を中心に、市外への人口流出に歯止めがかからない状況が続いています。特に旧十和田湖町区域では、人口減少が著しく進み、このままの状況で推移した場合、生産年齢人口の割合の低下に伴う人手不足が見込まれるなど、地域の抱える様々な課題がさらに深刻化することが懸念されます。

そのため、国内外の人々との多様な交流を通じ、本市ならではの魅力を発信・共有することにより、移住・定住希望者を増やすための支援体制を強化する必要があります。

人口減少社会の中にあって、持続可能なまちづくりを進めていくためには、より多くの人たちと幅広い分野での交流を深めることで、地域への新しいひとの流れをつくる必要があります。

### (2) その対策

#### 1) 移住・定住

- ① 近年の首都圏から地方への移住希望者の増加傾向を踏まえ、引き続き、魅力的な移住候補地として積極的な情報発信や相談対応に取り組み、移住・定住希望者及び出会い・結婚を希望する若者世代への支援体制を強化します。
- ② Uターン希望者の要望に応えられる受入支援体制を継続して行います。
- ③ 市外からの新規就農者の移住・定住を促進するため、農村における空き家の有効活用など、定住初期の就農を支援します。
- ④ 上十三・十和田湖広域定住自立圏域市町村との連携・協力を深めながら、移住の促進及び定住人口の増加、圏域内の交流促進に取り組みます。

#### 2) 地域間交流

- ① 特定の地域に継続的に多様な形で関わる関係人口や交流人口の創出・拡大に取り組みます。
- ② 岩手県花巻市との友好都市交流や高知県土佐町との姉妹都市交流、福島県矢吹町・宮崎県川南町との日本三大開拓地サミットなどの都市間交流事業を推進します。

### 3) 人材育成

- ① 移住希望者の視点に立ち、雇用面や住居、生活面での魅力づくりに合わせ、本市の出身者が地域の将来を支える人材となるための環境づくりを進めます。
- ② 職業能力開発の場の設置や各種セミナーの開催、UIJターンによる就職支援に取り組み、若年者などの人材育成及び女性や高齢者の就業を支援します。
- ③ 市・大学・市民のネットワークを形成し、大学の持つ人材を生涯学習やまちづくりに活かすとともに、本市の魅力を生内外に発信できる交流の担い手を育成します。
- ④ 農業従事者の減少に歯止めをかけ、将来にわたって本市の農業を支える高い意欲を持った担い手の育成・確保を図ります。
- ⑤ 十和田湖や奥入瀬溪流をはじめとする郷土の自然や歴史などを学ぶことにより、郷土の魅力を認識し、愛着と誇りを持てるひとづくりを目指します。

### (3) 計画

#### 事業計画(令和3年度～7年度)

持続的発展 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備考
移住・定住・ 地域間交流 の促進、人 材育成	過疎地域持続的 発展特別事業 (移住・定住)	移住・定住促進事業 【事業概要と効果】 ■移住者に対し、住宅取得費用等の一部を補助します。 ■人口の流入増加及び定住促進を図ります。	市	
		移住・定住就農支援事業 【事業概要と効果】 ■移住する青年就農者に対し、家賃や改修費の補助、農業技術指導等を実施します。 ■就農直後の農業経営安定を支援するとともに、担い手の育成・確保を図ります。	市	
	(地域間交流)	ワーケーション宿泊推進事業 【事業概要と効果】 ■宿泊事業者が行うワーケーション利用者向けの宿泊割引に係る費用を補助します。 ■十和田湖・奥入瀬周辺における旅行者の長期滞在と関係人口の創出を図ります。	宿泊 事業者	



持続的発展 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備考
移住・定住・ 地域間交流 の促進、人 材育成	過疎地域持続的 発展特別事業 (人材育成)	郷土学習充実事業 【事業概要と効果】 ■市内の児童が十和田湖や奥入瀬溪流等 の郷土の自然や歴史を学ぶためのバス 借上料と遊覧船の乗船料を助成します。 ■郷土に対する愛着と誇りを持てる人材 の育成を図ります。	市	

#### (4) 公共施設等総合管理計画等との整合

本計画では「十和田市公共施設等総合管理計画」に掲げる施設類型ごとの方針との整合性を図りながら適切に実施します。

### 3. 産業の振興

#### (1) 現況と問題点

就業人口の割合から旧十和田湖町区域の産業をみると、第1次産業 25.3%、第2次産業 18.3%、第3次産業 52.4%（平成 27 年国勢調査）となっており、農林業、畜産業を中心とする第1次産業と、国内屈指の観光地である十和田湖、奥入瀬溪流、八甲田山を核とする観光業等の第3次産業が主産業となっています。

第1次産業の就業人口は、平成 2（1990）年から平成 27（2015）年にかけての 25 年の間に 708 人、53.7%減少しており、第2次、第3次産業に比べて減少の度合いが著しいです。これは、農産物輸入拡大と価格の低迷等に伴い所得が減少したため、新規就農者の減少や他産業へ労働力が流出したことなどによるものと考えられます。

##### 1) 農業

旧十和田湖町区域の基幹作物は米であり、機械化の促進と経営の合理化を図るために、昭和 52（1977）年から基盤整備事業を推進しており、沢田、奥瀬地区については、ほぼ整備され、今後は一部の未整備地区の整備促進が望まれています。また、良質な農産物等の生産のみにとどまらず、加工施設等を積極的に活用することで加工品としての付加価値を高めるなど、生産地としての形態を整え、生産から加工・販売までに至る6次産業化への取組を促進させる必要があります。

一方で、農業従事者の高齢化や農業離れによる遊休農地が増加しており、農地の荒廃を防ぎ優良農地を確保するため、国土保全や水源のかん養といった農業の持つ多面的機能を活かした取組が求められます。

##### 2) 畜産業

旧十和田湖町区域は、昭和 48（1973）年に肉用牛振興地域の指定を受け、恵まれた山林原野を採草放牧地に造成し、肉用牛の飼養頭数は増加していましたが、牛肉の輸入自由化以降は、価格の低迷、畜産農家の高齢化、担い手不足などにより、飼養頭数、戸数とも減少の傾向にあります。一方、豚については、飼養農家の戸数は減少傾向にあるものの、飼養頭数は横這いで推移しています。

##### 3) 水産業

十和田湖でヒメマス、コイ、サクラマス等、奥入瀬川水系でヤマメ、イワナ等の漁業や遊漁が行われていますが、今後は稚魚育成の安定化に向けた種苗生産施設や安定した生産供給を図るための漁獲後の販売施設の拡充、更には、魚体の品質保持のための漁法の改善が課題となっています。

#### 4) 林業

十和田市全体における総土地面積の 65.7%の 47,702ha は森林であり、そのうち、国有林が 59.2%の 28,230ha、民有林が 40.8%の 19,472ha を占めています（青森県森林資源統計書『令和3年4月』）。民有林のうち、人工林は 12,142ha がありますが、本格的な主伐期を迎え、間伐を必要とする森林も多く、今後、優良材の生産のため間伐を促進するとともに、間伐材の有効利用を図らなければなりません。

また、林道の整備については、今後も計画的な整備の促進が必要です。

#### 5) 雇用

旧十和田湖町区域の第2次産業の就業人口は、平成7（1995）年時の 902 人をピークに減少傾向にあり、今後とも就業条件等の良好な企業の誘致等を促進する必要があります。

第3次産業の就業人口は、平成2（1990）年から平成27（2015）年にかけての 25 年の間に 774 人、38.0%減少しており、就業人口減少の歯止めには至っていません。

少子高齢化が進むなか、若者から高齢者までのあらゆる年代が、地域経済活力の維持・増進を支える担い手として自らの能力を十分発揮できるよう、関係機関との連携・協力のもと、それぞれのライフスタイルなどに応じ、地域社会での活躍の場を見出すことができる働き方の実現を適切に支援する必要があります。

#### 6) 観光

旧十和田湖町区域には、十和田湖、奥入瀬溪流などを含む十和田八幡平国立公園の美しく雄大な自然環境をはじめとした多彩な地域資源があります。それら地域資源を活かすとともに、多様化する国内旅行者のニーズを踏まえ、ターゲットとする観光客を明確にしたうえで、その特性に応じた観光メニューの開発・提供を推進するほか、地域ぐるみで行うおもてなしを通じて観光客の満足度を高めるなど、様々な面からリピーターを増やすための取組をさらに強化する必要があります。

今後さらに増加すると見込まれる外国人観光客が快適に市内観光を楽しむことができるよう、観光地などにおける案内表示の多言語化や情報通信環境の整備などによる受入体制の強化を図るとともに、観光情報の発信の強化やイベントによる集客効果を活用しながら、自然、温泉、食、歴史、文化などの多様な地域の資源を活かした魅力ある滞在型観光地づくりに取り組む必要があります。

また、観光関連事業者や関係団体、市民などとの連携を強化し、地域主体の観光振興や観光地づくりを担う人材の育成・強化を図る必要があります。

## (2) その対策

### 1) 農業

- ① 遊休施設等の利活用や直売所等での販売促進を強化し、付加価値の高い農林水産業の振興を図ります。旧十和田市区域との一体的な取組により、特産品に係る産地づくりをめざします。
- ② 農地の適正な利用による遊休農地の発生防止を図ります。また、農地の持つ多面的機能の確保及び農村コミュニティの促進を図るため、多面的機能支払交付金事業、中山間地域等直接支払事業及び地域の中心経営体への農地集約を進める農地中間管理事業等の活用を図ります。
- ③ ほ場、農道及び農業用排水路等については、計画的に整備を進めます。

### 2) 畜産業

- ① 優良な血統を受け継ぐ繁殖雌牛の確保や地元保留を促進するほか、肥育を含めた地域一貫生産を推進します。
- ② 畜産経営の大規模化や、飼料の安定確保などの取組により、経営の効率化と安定化を支援します。

### 3) 水産業

- ① 十和田湖や奥入瀬川水系における内水面漁業の持続的かつ健全な発展に資するよう、水産資源の安定確保を図るため、漁業協同組合が実施するヒメマスやヤマメなどのふ化・放流事業を支援します。
- ② 十和田湖ひめますの認知度を高め、ブランドイメージを保全強化するとともに販売拡大を図ります。

### 4) 林業

- ① 地球温暖化の緩和、土砂災害の防止及び水源のかん養など森林の有する多面的機能の維持・増進を図るため、木材の有効活用及び計画的な森林整備を進めます。
- ② 林道については、計画的に新設・改良・舗装等の整備を進めます。

## 5) 雇用

農畜産物等を活用した加工商品製造業など、地域の条件に合う就業条件の良好な企業の誘致を促進するとともに、より多くの人々が自らの希望や能力を活かし、安定して働くことができるよう、雇用の創出と就業支援の充実を図ります。

## 6) 観光

- ① 道の駅や観光施設の機能向上、観光地の景観整備、新たな観光資源の発掘・活用により、魅力ある観光地づくりを進めます。
- ② 「国立公園満喫プロジェクト」に選定された十和田八幡平国立公園を中心に、自然を活かした観光メニューの充実やユニバーサルデザインに配慮した受入環境整備に努め、国立公園のブランド化を推進します。
- ③ 市民や（一社）十和田奥入瀬観光機構をはじめとする多様な主体との連携・協力により、地域ぐるみで観光客を温かく迎え入れる体制の強化を図るとともに、観光客のニーズに即した魅力ある観光サービスの充実に取り組みます。
- ④ 温泉供給施設の更新に取り組むことにより、奥入瀬溪流温泉（焼山地区）への安定した湯量供給を図ります。

施設の整備に係る目標については、公共施設等総合管理計画との整合を図り、長寿命化や集約化を行うものとします。

## (3) 計画

### 事業計画(令和3年度～7年度)

持続的発展 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備考
産業の振興	基盤整備 (農業)	経営体育成基盤整備事業	県	負担
		農村地域防災減災事業	県	負担
	観光又はレクリエーション	奥入瀬溪流温泉まちなみ再整備事業	市	
		国立公園施設整備事業	市	

持続的発展 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備考
産業の振興	観光又はレクリエーション	奥入瀬溪流温泉スキー場整備事業	市	
		焼山地区温泉供給施設整備事業	市	
		宇樽部キャンプ場環境整備事業	市	
		奥入瀬ろまんパーク施設設備整備事業	市	
	過疎地域持続的 発展特別事業 (第1次産業)	多面的機能支払交付金事業 【事業概要と効果】 ■農地の保全管理及び農村集落などの環境整備に取り組む組織を支援します。 ■農地の持つ多面的機能の確保及び地域活動の活性化につながります。	民間 組織	
		中山間地域等直接支払事業 【事業概要と効果】 ■水路や農道の保全管理などに取り組む集落組織を支援します。 ■農地の持つ多面的機能の確保及び農村コミュニティの促進につながります。	民間 組織	
		内水面漁業振興対策事業 【事業概要と効果】 ■十和田湖増殖漁業協同組合が実施する水産資源管理に要する費用を補助します。 ■十和田湖及び奥入瀬川水系の魚類の生息数の確保を図ります。	十和田 湖増殖 漁業協 同組合	
		十和田湖ひめますブランド力向上事業 【事業概要と効果】 ■十和田湖ひめますの認知度向上に取り組む十和田湖ひめますブランド推進協議会に対して負担金を拠出します。 ■十和田湖ひめますのブランド力向上を図ります。	十和田 湖ひめ ますブ ランド 推進協 議会	
		(観光)	焼山地区活性化事業 【事業概要と効果】 ■焼山地区(奥入瀬溪流温泉)において、「花」と「温泉」と「アート」を活用した取組を進めます。 ■新たな観光資源としての魅力向上を図ります。	市

#### (4) 産業振興促進事項

##### (i) 産業振興促進区域及び振興すべき業種

産業振興促進区域	業種	計画期間	備考
旧十和田湖町区域	製造業、農林水産物等販売業、旅館業及び情報サービス業など	令和3年4月1日～ 令和8年3月31日	

##### (ii) 当該業種の振興を促進するために行う事業の内容

上記(2)その対策及び(3)計画のとおり

#### (5) 公共施設等総合管理計画等との整合

本計画では「十和田市公共施設等総合管理計画」に掲げる施設類型ごとの方針との整合性を図りながら適切に実施します。

## 4. 地域における情報化

### (1) 現況と問題点

近年、情報通信技術（ICT）は、飛躍的に進展しており、スマートフォンやタブレット端末等の普及に伴い、生活や仕事など、社会のあらゆる場面で必要不可欠なものとなっています。

また、新型コロナウイルス感染症の流行により、人々の日常は大きく変化し、新たな生活様式への移行を余儀なくされたことから、これまでデジタル化が進まなかった分野においても、個人、産業、教育、社会といったあらゆる環境において変革が生まれ、デジタル化・リモート化を前提とした活動が定着していくことが想定されます。

旧十和田湖町区域では情報通信基盤の整備を目的に、平成 29（2017）年度に十和田湖畔地区においてインターネット光回線を公設民営方式で整備し、地域住民や観光客等の利便性向上を図りました。一方で光回線が整備されていない地域もあることから、未整備地域の解消に向けて、引き続き事業者へ整備を働きかけるとともに、関係機関と連携した情報通信基盤の整備を推進する必要があります。

また、災害時の通信体制としては移動系防災行政無線の配備により、行政間の通信網が整備されたほか、同報系防災行政無線の屋外拡声子局の整備や戸別受信機の配置により、区域全体に対して防災情報や緊急情報を伝達する体制の整備が図られています。

今後は、整備した通信施設の適正な維持管理に努めるとともに、ICTの技術革新の状況や利活用の需要状況も踏まえながら、積極的にICTの利活用を進める必要があります。

### (2) その対策

- ① 関係機関との連携・協力のもと、だれもが快適かつ安全・安心にICTを利活用できるよう、関係機関や事業者へ働きかけるとともに、情報通信基盤等の整備を推進します。
- ② ICTを利用した情報活用能力を育成するため、小・中学校においてタブレット端末等を活用した教育を推進します。



**(3) 計画**

## 事業計画(令和3年度～7年度)

持続的発展 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備考
地域におけ る情報化	電気通信施設等 情報化のための 施設 (その他の情報化 のための施設)	無線システム普及支援事業	市	

**(4) 公共施設等総合管理計画等との整合**

本計画では「十和田市公共施設等総合管理計画」に掲げる施設類型ごとの方針との整合性を図りながら適切に実施します。

## 5. 交通施設の整備、交通手段の確保

### (1) 現況と問題点

#### 1) 交通施設の整備

旧十和田湖町区域の道路交通網は、令和2（2020）年3月31日現在、国道102号、国道103号、国道394号、国道454号のほか、主要地方道1路線、一般県道2路線、市道175路線184,539.1mが張り巡らされています。

市道の整備状況は、改良済延長67,100.6m、改良率36.4%、舗装延長125,802.5m、舗装率68.2%と改良の面で遅れています。将来の交通事情を考えると、道路拡幅等の改良を積極的に推進し、破損の著しい簡易舗装を改良整備していく必要があります。

また、冬期間における交通確保のため除雪体制の強化や防雪柵等の整備が必要です。農林道については、舗装等の整備は一部のみで、今後、生産性の高い農林業経営を図るため、整備を進めていく必要があります。

一方、観光振興を図るため、国道103号奥入瀬（青樫山）バイパスの早期完成や東北新幹線八戸駅へのアクセス道路の整備が求められています。

#### 2) 交通手段の確保

旧十和田湖町区域では、人口減少や少子高齢化の進展に伴う公共交通機関の輸送人員の減少などにより、路線バスを中心とする公共交通ネットワークの規模縮小やサービス水準の低下が懸念されています。

また、高齢者や児童・生徒などの移動制約者対策はもとより、地域社会の活力の維持・向上や観光振興にも結びつくよう、近隣自治体との連携のもと、公共交通の利便性の確保や安定的な運営に向けた取組を強化する必要があります。

### (2) その対策

#### 1) 交通施設の整備

- ① 地域住民の日常生活の安全性や産業経済活動の利便性を確保するため、緊急度や重要度に応じた、道路・橋梁の計画的な整備と効率的な維持管理を推進します。
- ② 冬期間の交通を確保するため、防雪柵等の整備を進めるとともに、除雪体制の強化を図ります。

- ③ 農林道については、計画的に新設・改良・舗装等の整備を進めます。
- ④ 集落間及び集落と市街地を結ぶ集落道を整備し、市街地から離れた集落の利便性を高めます。

## 2) 交通手段の確保

- ① 移動制約者の交通手段を安定的に確保するため、コミュニティバスの運行やタクシー車両によるデマンド運行、自家用有償運送の活用などにより、地域特性や公共交通の利用実態に即した輸送体制の確立を図ります。
- ② 地域社会の活力の維持・向上や観光振興にも結びつくよう、近隣自治体との連携・協力のもと、周辺部に位置する空港や鉄道駅と本市を結ぶ公共交通網の整備に努めます。

施設の整備に係る目標については、公共施設等総合管理計画との整合を図り、長寿化や集約化を行うものとします。

## (3) 計画

### 事業計画(令和3年度～7年度)

持続的発展 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備考
交通施設の 整備、交通 手段の確保	市町村道 (道路)	市道法量線 改良 L=80m W=11.5m	市	
		市道焼山線 改良 L=1,600m W=9.0m	市	
		市道猿倉線 舗装 L=450m W=5.0m	市	
		市道両泉寺家ノ下線 改良 L=400m W=5.0m	市	
		市道中ノ渡生内線 改良 L=900m W=5.0m	市	
		市道館野倉沢線 改良 L=320m W=8.0m	市	
		市道上川目線 舗装 L=200m W=5.0m	市	
		市道向村大沼平線 改良 L=1,500m W=4.5m	市	

持続的発展 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備考
交通施設の 整備、交通 手段の確保	市町村道 (道路)	市道太田上線 改良 L=150m W=6.0m	市	
		市道太田線 改良 L=150m W=6.0m	市	
		市道太田岩井口線 改良 L=200m W=6.0m	市	
		市道中ノ渡3号線 改良 L=300m W=5.0m	市	
		市道宇樽部十和田山線 舗装 L=500m W=4.5m	市	
	(橋りょう)	橋りょう(猿倉橋)L=12.4m	市	
		橋りょう(色内橋)L=11.0m	市	
		橋りょう(府金橋)L=10.6m	市	
		橋りょう(法量橋)L=12.5m	市	
		橋りょう(新羅橋)L=5.1m	市	
		橋りょう(生内橋)L=11.6m	市	
		橋りょう(烏谷附2号橋)L=18.9m	市	
		橋りょう(仙ノ沢三又橋)L=10.1m	市	
		橋りょう(大堀橋)L=95.0m	市	
		橋りょう(焼山橋)L=11.8m	市	
		橋りょう(百目木橋)L=52.8m	市	
		橋りょう(野ノ沢橋)L=10.4m	市	
		橋りょう(筒場橋)L=12.0m	市	
		橋りょう(第2下川原橋)L=17.6m	市	

持続的発展 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備考
交通施設の 整備、交通 手段の確保	(その他)	市道公園線 防雪柵設置 L=450m	市	
		市道太田田屋線 防雪柵設置 L=600m	市	
		市道新川原下川目線 防雪柵設置 L=300m	市	
		市道太田川原三日市線 防雪柵設置 L=1,800m	市	
		市道大堀段ノ台線 防雪柵設置 L=400m	市	
		市道下洗音道線 防雪柵設置 L=200m	市	
		市道大堀田茂木1号線 防雪柵設置 L=400m	市	
		市道焼山線 防雪柵設置 L=200m	市	
		過疎地域持続的 発展特別事業 (公共交通)	西地区シャトルバス運行事業 【事業概要と効果】 ■旧十和田湖町区域から中心市街地ま で西地区シャトルバスを運行します。 ■当該地域住民の交通手段の確保を図 ります。	市
	公共交通空白地有償運送事業 【事業概要と効果】 ■公共交通未整備地域の住民の生活交 通を確保するため、空白地有償運送を 実施する団体に対し、運行に要する費 用の一部を補助します。 ■当該地域の生活交通の確保を図りま す。		特定非 営利活 動法人 十和田 奥入瀬 郷づく り大学	

#### (4) 公共施設等総合管理計画等との整合

本計画では「十和田市公共施設等総合管理計画」に掲げる施設類型ごとの方針との整合性を図りながら適切に実施します。

## 6. 生活環境の整備

### (1) 現況と問題点

#### 1) 水道

旧十和田湖町区域における簡易水道施設は、11 地区点在していましたが、平成 21 (2009) 年度に休屋、宇樽部、子ノ口の 3 地区について十和田湖畔地区簡易水道として統合整備したほか、平成 23 (2011) 年度には沢田、上川目、段ノ台・川口、法量の 4 地区について、平成 25 (2013) 年度には百目木地区について上水道への統合整備を行いました。また、平成 29 (2017) 年度には淵沢・片貝沢、高田・大畑野の 2 地区について焼山地区簡易水道への統合整備を行っています。

安全で安心な水道水の安定供給を図るため、今後は老朽化により機能低下が著しい施設について、機能維持のため計画的な更新を行う必要があります。

#### 2) 下水道

旧十和田湖町区域における令和 2 (2020) 年 3 月 31 日現在の水洗化率は 84.4%となっています。

焼山地区の特定環境保全公共下水道事業、法量、奥瀬、沢田、各地区の農業集落排水事業の処理施設のうち、老朽化により機能低下が著しい施設については、機能維持のため計画的な更新を行う必要があります。

#### 3) 廃棄物処理施設

し尿処理及びごみ処理については、十和田地域広域事務組合において行っています。今後、なお一層ごみの減量化をめざして分別収集や美化対策を推進するとともに、循環型地域社会を構築するために、リサイクルなどの取組を推進する必要があります。

#### 4) 消防施設及び救急体制

旧十和田湖町区域の消防事務は、十和田地域広域事務組合において行われており、消防防災及び救急体制の強化拡充を図っています。

令和 3 (2021) 年 4 月から新庁舎において運用が開始されている十和田湖消防署には、令和 3 (2021) 年 4 月 1 日現在、消防職員が 24 人 (署長含む) 配置されているほか、指揮車 1 台、消防車 2 台、高規格救急車 1 台、査察広報車 1 台が配備されています。また、十和田湖消防署湖畔出張所には、消防職員 14 人 (出張所長含む) が配置されているほか、災害対応車 1 台、消防車 1 台、高規格救急車 1 台、救助艇 1 艇が配備されています。

非常備の消防団は令和 3 (2021) 年 4 月 1 日現在、4 分団あり団員数 153 人となっ

ています。その他、防火組織として婦人防火クラブが5地区に組織されています。

消防施設は、令和3（2021）年4月1日現在、消防ポンプ自動車6台、小型動力ポンプ付積載車5台、防火水槽75基ですが、本区域は行政区域が広く、かつ水利の便が悪く、また集落が点在しています。初期消火活動を重視した機動力のある火災防御体制とするため、ポンプ自動車の更新整備、防火水槽の定期的な点検、老朽化が進む消防施設の建て替えや改修など、消防力の整備強化を図る必要があります。

## 5) 公共施設等

現在、市の所有となっている老朽化が著しい空き建築物（旧旅館）については、地震時の倒壊の危険性や衛生上、景観上の問題という観点から、解体撤去を行う必要があります。

## (2) その対策

### 1) 水道

水道については、水源の確保、保全等に努めるとともに、簡易水道及び旧簡易水道施設の計画的な更新を行うことにより、安全で安心な水道水の安定供給に努めます。

### 2) 下水道

下水処理施設の計画的な更新を図るとともに、集合処理区域内全域において下水道施設への接続を促進します。

### 3) 廃棄物処理施設

ごみのリサイクル、減量等の積極的な取組を促進します。

### 4) 消防施設及び救急体制

- ① 防火体制を強化充実させるため、消防施設・消防車両などの整備・更新を計画的に行います。
- ② 市民の災害に対する意識の高揚を図ります。

### 5) 公共施設等

地域住民の安全・安心確保の観点から問題があり、利用計画のない未使用の公共施設等については、解体・撤去を行います。

施設の整備に係る目標については、公共施設等総合管理計画との整合を図り、長寿命化や集約化を行うものとします。

### (3) 計画

#### 事業計画(令和3年度～7年度)

持続的発展 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備考
生活環境の 整備	水道施設 (簡易水道)	簡易水道施設整備事業	市	
	下水処理施設 (農村集落排水施設)	農業集落排水処理施設整備事業	市	
	消防施設	消防団車両購入事業	市	
		消防団屯所施設整備事業	市	
	過疎地域持続的 発展特別事業 (危険施設撤去)	焼山地区旧旅館解体事業 【事業概要と効果】 ■空き建築物(旧旅館)の施設を解体撤去します。 A=679㎡ 鉄骨・木造構造 ■地域住民の安心・安全な暮らしを確保するとともに、観光地の景観を保全するため、防災・防犯上で問題のある施設を解体撤去します。	市	

### (4) 公共施設等総合管理計画等との整合

本計画では「十和田市公共施設等総合管理計画」に掲げる施設類型ごとの方針との整合性を図りながら適切に実施します。



## 7. 子育て環境の確保、高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進

### (1) 現況と問題点

#### 1) 児童の福祉

本市の幼児・児童数は、年々減少傾向にあり、旧十和田湖町区域においても同様の状況にあります。一方で、本市は子育て世代の女性の就業率が、全国や県と比較しても高い状況が続いており、保育所や学童保育の利用率も上昇傾向にあります。

そのような中、将来にわたって活力ある地域社会の維持・形成を図るためには、より多くの親たちが、安心して子どもを産み育てられる環境を整えるとともに、子どもたちが地域社会のなかで心身ともに健やかに成長できる環境の充実を図る必要があります。

また、全国的に世帯の小規模化や地域コミュニティの希薄化などを背景に、家庭及び地域社会における子育て力の低下が懸念され、支援を必要とする子ども及びその保護者を支える支援体制の強化を図る必要があります。

#### 2) 高齢者の福祉

旧十和田湖町区域の高齢者の割合は年々上昇しており、昭和 35（1960）年の 65 歳以上人口が 506 人で全人口の 4.7%であったのが、平成 27（2015）年には 65 歳以上人口が 1,714 人で高齢化率は 40.2%となり、高齢化の進行が顕著となっています。

高齢者の福祉対策としては、老人クラブに対する助成事業や老人福祉バスを活用した研修等を行っています。

また、高齢者の生活支援としては、地域包括支援センターを中心に、保健・医療・福祉の各関係機関と連携を図りながら、包括的かつ継続的な支援体制の充実に努めています。

その他、介護保険制度による各種サービスの充実を図っています。

これからも、高齢者が住み慣れた地域で元気に自立した生活ができるように、第 8 期十和田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画に基づき、福祉対策や介護予防事業を積極的に推進する必要があります。

#### 3) 保健

人口の高齢化により医療需要が増大し、多様化する中で疾病予防が重要であり、健康診査・各種がん検診・生活習慣改善等の保健事業の充実が課題となっています。

## (2) その対策

### 1) 児童の福祉

- ① 保護者の就労形態の多様化に伴い、地域の保育需要に応じた子ども・子育て支援事業を実施します。
- ② 子どもたちが地域社会のなかで心身ともに健やかに成長できる環境を整えます。

### 2) 高齢者の福祉

- ① 高齢者の社会参加と生きがいづくり活動を支援するとともに、在宅福祉サービスの充実を図ります。
- ② 一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯の増加に伴い、地域の状況を把握し、必要なサービスにつなげるための相談支援体制の充実を図るとともに、地域による見守り体制の強化を図ります。
- ③ 介護サービスの充実及び介護予防のための施策を推進します。

### 3) 保健

- ① 病気の予防並びに早期発見・早期治療のための健康診査、健康相談、健康教育等の保健事業を行います。
- ② 保健協力員、母子保健推進員及び食生活改善推進員等と連携し、地域住民の健康意識の高揚を図ります。
- ③ 乳幼児から高齢者までのライフステージに応じた保健事業を、関係機関と連携し推進します。

### (3) 計画

#### 事業計画(令和3年度～7年度)

持続的発展 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備考
子育て環境 の確保、高 齢者等の保 健及び福祉 の向上及び 増進	過疎地域持続的 発展特別事業 (児童福祉)	十和田湖地区託児・学童保育支援事業 【事業概要と効果】 ■十和田湖地区において託児及び学童 保育事業を実施する団体に対し、当該 事業に要する費用の一部を補助しま す。 ■当該地域の子育て世帯が安心して子 育てできる環境を確保します。	休屋 町内会	

### (4) 公共施設等総合管理計画等との整合

本計画では「十和田市公共施設等総合管理計画」に掲げる施設類型ごとの方針との整合性を図りながら適切に実施します。

## 8. 医療の確保

### (1) 現況と問題点

旧十和田湖町区域の医療施設は、十和田湖診療所1カ所となっています。また、現在は非常勤医師による平日週3回の診療となっており、散在する集落での医療体制は充分とはいえない状況です。

### (2) その対策

地域住民及び観光客が安心して必要な時に必要な医療サービスが受けられるよう、医療体制の強化を図ります。

また、医療機器の計画的な整備や市立中央病院との連携により地域医療の充実を図ります。

### (3) 計画

#### 事業計画(令和3年度～7年度)

持続的発展 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備考
医療の確保	診療施設 (その他)	十和田湖診療所医療機器整備事業	市	
	過疎地域持続的 発展特別事業 (その他)	十和田湖診療所維持運営事業 【事業概要と効果】 ■市立診療所における医師の特殊勤務 手当。 ■常勤医師等の配置により、地域医療の 充実を図ります。	市	

### (4) 公共施設等総合管理計画等との整合

本計画では「十和田市公共施設等総合管理計画」に掲げる施設類型ごとの方針との整合性を図りながら適切に実施します。

## 9. 教育の振興

### (1) 現況と問題点

#### 1) 学校教育

旧十和田湖町区域の教育施設は、昭和 52（1977）年までは小・中学校合わせて 12 校ありましたが、その後の統合により、現在は小学校 3 校、中学校 2 校となっています。

学校施設については、老朽化等により施設の劣化が著しい施設もあることから、必要な改修を順次行い、児童生徒の安全を確保する必要があります。

また、法奥小学校区及び第一中学校区は広範囲に及ぶことから、遠距離通学者の通学手段を確保する必要があります。

#### 2) 体育施設

十和田湖総合運動公園には、陸上競技場、テニスコート、プール、野球場があり、他に、隣接してゲートボール場があります。また、焼山地区には、アネックススポーツランドと八甲田パノラマパークゴルフ場があります。

これら体育施設については、老朽化等により施設の劣化が著しい施設もあることから、計画的な改修を行う必要があります。

#### 3) 生涯学習、コミュニティ活動

地域住民の学習ニーズや地域社会の抱える課題が多様化・複雑化するなか、それぞれのライフステージに応じた学習活動の推進のほか、地域における人づくりや自らが進んで地域づくりに参画、貢献できる環境づくりなどが求められています。

### (2) その対策

#### 1) 学校教育

児童・生徒がより安全・安心で快適に学べるよう、学校施設の改修や遠距離の通学手段の確保など教育環境の向上を図ります。

#### 2) 体育施設

利用者のニーズや利用実態を踏まえたうえで、安全で快適にスポーツ活動に取り組むことができるよう、スポーツ施設の適切な維持管理・運営を図るとともに、スポーツイベントなどを開催し、市民のスポーツ活動を推進します。

### 3) 生涯学習、コミュニティ活動

地域住民の多様な生涯学習ニーズに対応するため、生涯学習機会の充実を図るとともに、地域住民の生涯学習や地域コミュニティ活動の環境整備に努めます。

施設の整備に係る目標については、公共施設等総合管理計画との整合を図り、長寿命化や集約化を行うものとしします。

## (3) 計画

### 事業計画(令和3年度～7年度)

持続的発展 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備考
教育の振興	学校教育関連施設 (校舎、屋内運動場)	学校施設大規模改修事業	市	
	集会施設、体育施設等 (その他)	西コミュニティセンター環境整備事業	市	
	過疎地域持続的 発展特別事業 (義務教育)	遠距離通学支援事業 【事業概要と効果】 ■定期路線バスへ乗り合いする際の定期券購入に対する補助や臨時バスの運行など遠距離通学者の通学手段を確保します。 ■遠距離通学者の通学手段を確保することにより、小・中学生の良好な教育環境を整備します。	市	

## (4) 公共施設等総合管理計画等との整合

本計画では「十和田市公共施設等総合管理計画」に掲げる施設類型ごとの方針との整合性を図りながら適切に実施します。

## 10. 集落の整備

### (1) 現況と問題点

旧十和田湖町区域には、大小あわせて45集落が区域の中心を流れる奥入瀬川流域に散在しており、国・県道から極端に離れた小規模集落は2集落となっています。また、近年の人口減少、高齢化により集落の小規模化が進み、集落の維持が困難となること懸念されます。

地域コミュニティにおいては、農村集落部における人口減少、市街地における住民相互の連帯感の希薄化等の問題を抱えており、自治組織における住民活動の充実を図ることが難しくなっていることから、「自らの地域は自らでつくる」という意識の高揚を図り、地域主体の活動を積極的に推進していく必要があります。

また、農村集落部において集落体制の強化と活性化を図るためには、農地などの保全管理及び環境整備に地域共同で取り組む必要があります。

### (2) その対策

- ① コミュニティ組織の強化を図ります。
- ② 農地の保全管理及び農村集落などの環境整備を支援します。

### (3) 計画

事業計画(令和3年度～7年度)

持続的発展 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備考
集落の整備	過疎地域持続的 発展特別事業 (集落整備)	広域コミュニティ活動推進事業 【事業概要と効果】 ■広域コミュニティの活動活性化を目的 に、補助金を交付します。 ■コミュニティ組織の基盤強化、活動の 活性化を図ります。	市	
		多面的機能支払交付金事業	民間 組織	再掲
		中山間地域等直接支払事業	民間 組織	再掲

#### (4) 公共施設等総合管理計画等との整合

本計画では「十和田市公共施設等総合管理計画」に掲げる施設類型ごとの方針との整合性を図りながら適切に実施します。



## 11. 地域文化の振興等

### (1) 現況と問題点

旧十和田湖町区域には、国の特別名勝及び天然記念物に指定されている「十和田湖および奥入瀬溪流」、国の天然記念物に指定されている「法量のイチョウ」、県の天然記念物に指定されている「モミの木」があります。

また、「郷土館」及び「十和田湖民俗資料館」、国の重要文化財に指定されている「旧笠石家住宅」の計画的整備が必要となっています。

さらに、地域の小・中学生を対象に、市の無形民俗文化財に指定されている「沢田鶏舞」の指導が行われており、後継者育成に努めている他、各種サークル活動を中心に行われている文化芸術活動については、今後も支援、育成に努めていく必要があります。

### (2) その対策

- ① 貴重な重要文化財、天然記念物等は、適切な保護・保全に努め、後世に引き継ぎます。
- ② 埋蔵文化財、郷土・民俗資料の保存及び展示施設の整備等に努めます。
- ③ 市の伝統芸能である無形民俗文化財を保存、育成します。
- ④ 文化芸術活動の推進のため、各種サークル活動を育成支援します。

施設の整備に係る目標については、公共施設等総合管理計画との整合を図り、長寿命化や集約化を行うものとします。

**(3) 計画**

## 事業計画(令和3年度～7年度)

持続的発展 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備考
地域文化の 振興等	地域文化振興施 設等 (地域文化振興施 設)	十和田湖民俗資料館及び旧笠石家住宅 整備事業	市	

**(4) 公共施設等総合管理計画等との整合**

本計画では「十和田市公共施設等総合管理計画」に掲げる施設類型ごとの方針との整合性を図りながら適切に実施します。

## 12. 再生可能エネルギーの利用の推進

### (1) 現況と問題点

地球温暖化対策の推進に向けて、行政が先導役を果たし、市民、事業者をはじめとする多様な主体との連携・協力を根ざした取組を強化する必要があります。

### (2) その対策

関係団体や事業者などと連携・協力し、環境への負荷が少ない再生可能エネルギーの利活用を促進します。

### (3) 公共施設等総合管理計画等との整合

本計画では「十和田市公共施設等総合管理計画」に掲げる施設類型ごとの方針との整合性を図りながら適切に実施します。

## 13. その他地域の持続的発展に関し必要な事項

### (1) 現況と問題点

#### 1) 自然環境の保全・活用

八甲田山系の広大な森林や十和田湖、奥入瀬溪流などの貴重な自然は、市民共有の財産として、生活に潤いや安らぎをもたらすものであり、この自然を次世代に引き継ぐとともに、その恵みを活用した持続可能な地域社会の構築が求められています。

健康で安全かつ快適な市民生活を確保するため、大気や河川の水質、騒音、悪臭などの把握に努めながら、状況の変化に応じた対策を的確に講じる必要があります。

### (2) その対策

#### 1) 自然環境の保全・活用

- ① 関係機関との連携のもと、生物多様性の保全を図ります。
- ② 環境保全団体などの活動支援を通じ、自然保護に対する意識の高揚を図ります。
- ③ 名水地等の適切な維持管理に努め、市民が自然にふれあう機会の創出を図ります。

### (3) 計画

事業計画(令和3年度～7年度)

持続的発展 施策区分	事業名 (施設名)	事業内容	事業 主体	備考
その他地域の持続的発展に関し必要な事項	過疎地域持続的発展特別事業	内水面漁業振興対策事業	十和田湖増殖漁業協同組合	再掲
		名水保全事業	市	

### (4) 公共施設等総合管理計画等との整合

本計画では「十和田市公共施設等総合管理計画」に掲げる施設類型ごとの方針との整合性を図りながら適切に実施します。

(添付資料)

【再掲】事業計画(令和3年度～令和7年度) 過疎地域持続的発展特別事業分

持続的発展 施策区分	事業名	事業内容 【事業概要と効果】	事業 主体	備考
1 移住・定住・地域間交流の促進、人材育成	移住・定住促進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■移住者に対し、住宅取得費用等の一部を補助します。</li> <li>■人口の流入増加及び定住促進を図ります。</li> </ul>	市	
	移住・定住就農支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■移住する青年就農者に対し、家賃や改修費の補助、農業技術指導等を実施します。</li> <li>■就農直後の農業経営安定を支援するとともに、担い手の育成・確保を図ります。</li> </ul>	市	
	ワーケーション宿泊推進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■宿泊事業者が行うワーケーション利用者向けの宿泊割引に係る費用を補助します。</li> <li>■十和田湖・奥入瀬周辺における旅行者の長期滞在と関係人口の創出を図ります。</li> </ul>	宿泊事業者	
	郷土学習充実事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■市内の児童が十和田湖や奥入瀬溪流等の郷土の自然や歴史を学ぶためのバス借上料と遊覧船の乗船料を助成します。</li> <li>■郷土に対する愛着と誇りを持てる人材の育成を図ります。</li> </ul>	市	
2 産業の振興	多面的機能支払交付金事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■農地の保全管理及び農村集落などの環境整備に取り組む集落組織を支援します。</li> <li>■農地の持つ多面的機能の確保及び地域活動の活性化につながります。</li> </ul>	民間組織	
	中山間地域等直接支払事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■水路や農道の保全管理などに取り組む集落組織を支援します。</li> <li>■農地の持つ多面的機能の確保及び農村コミュニティの促進につながります。</li> </ul>	民間組織	
	内水面漁業振興対策事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■十和田湖増殖漁業協同組合が実施する水産資源管理に要する費用を補助します。</li> <li>■十和田湖及び奥入瀬川水系の魚類の生息数の確保が図られます。</li> </ul>	十和田湖増殖漁業協同組合	
	十和田湖ひめますブランド力向上事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■十和田湖ひめますの認知度向上に取り組む十和田湖ひめますブランド推進協議会に対して負担金を拠出します。</li> <li>■十和田湖ひめますのブランド力向上を図ります。</li> </ul>	十和田湖ひめますブランド推進協議会	
	焼山地区活性化事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■焼山地区(奥入瀬溪流温泉)において、「花」と「温泉」と「アート」を活用した取組を進めます。</li> <li>■新たな観光資源としての魅力向上を図ります。</li> </ul>	市	

持続的発展 施策区分	事業名	事業内容 【事業概要と効果】	事業 主体	備考
4 交通施設 の整備、 交通手段 の確保	西地区シャトルバ ス運行事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■旧十和田湖町区域から中心市街地まで西地区シャトルバスを運行します。</li> <li>■当該地域住民の交通手段の確保を図ります。</li> </ul>	市	
	公共交通空白地 有償運送事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■公共交通未整備地域の住民の生活交通を確保するため、空白地有償運送を実施する団体に対し、運行に要する費用の一部を補助します。</li> <li>■当該地域の生活交通の確保を図ります。</li> </ul>	特定非 営利活 動法人 十和田 奥入瀬 郷づくり 大学	
5 生活環境 の整備	焼山地区旧旅館 解体事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■空き建築物(旧旅館)の施設を解体撤去します。 A=679㎡ 鉄骨・木造構造</li> <li>■地域住民の安心・安全な暮らしを確保するとともに、観光地の景観を保全するため、防災・防犯上で問題のある施設を解体撤去します。</li> </ul>	市	
6 子育て環 境の確保、 高齢者等 の保健及び 福祉の向上 及び増進	十和田湖地区託 児・学童保育支 援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■十和田湖畔地区において託児及び学童保育事業を実施する団体に対し、当該事業に要する費用の一部を補助します。</li> <li>■当該地域の子育て世帯が安心して子育てできる環境を確保します。</li> </ul>	休屋 町内会	
7 医療の確 保	十和田湖診療所 維持運営事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■市立診療所における医師の特殊勤務手当。</li> <li>■常勤医師等の配置により、地域医療の充実を図ります。</li> </ul>	市	
8 教育の振 興	遠距離通学支 援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■定期路線バスへ乗り合いする際の定期券購入に対する補助や臨時バスの運行など遠距離通学者の通学手段を確保します。</li> <li>■遠距離通学者の通学手段を確保することにより、小・中学生の良好な教育環境を整備します。</li> </ul>	市	
9 集落の整 備	広域コミュニティ 活動推進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■広域コミュニティの活動活性化を目的に、補助金を交付します。</li> <li>■コミュニティ組織の基盤強化、活動の活性化を図ります。</li> </ul>	市	

## 《十和田市民憲章》

平成 19 年 11 月 30 日制定

わたしたちは、四季を織りなす十和田湖・奥入瀬・八甲田の豊かな自然につつまれ、先人から受け継いだ開拓精神にはぐくまれた十和田市民です。

わたしたちは、このまちに生きることに誇りと責任をもち、未来に羽ばたくまちをつくるため、ここに市民憲章を掲げます。

- 1、永遠(とわ)に輝く自然をいつくしみ、水と緑の美しいまちをつくります。
- 1、わがふるさとを愛し、文化の香り高いまちをつくります。
- 1、誰もが健康で思いやりにあふれ、安心して暮らせるまちをつくります。
- 1、仕事に誇りをもち、活力のあるまちをつくります。

## 十和田市過疎地域持続的発展計画（令和 3 年度～令和 7 年度）

令和 3 年 12 月 日

十和田市 企画財政部 政策財政課

〒034-8615

青森県十和田市西十二番町 6 番 1 号

TEL : 0 1 7 6 - 5 1 - 6 7 1 2 (直通)

FAX : 0 1 7 6 - 2 4 - 9 6 1 6

e-mail : [seisakuzaisei@city.towada.lg.jp](mailto:seisakuzaisei@city.towada.lg.jp)

